

THE CHIKUMAKAIHO

JAN.2024(令和6年)

No.326

千曲会報



逆さ虹（環天頂アーチ）



信州大学繊維学部同窓会
一般社団法人 千曲会

TES のテキストを改訂しました

NEW

12月初旬発刊

新改訂版

繊維製品の基礎知識



繊維製品品質管理士 (TES) の『短答式』試験用テキスト「新訂 4 版 繊維製品の基礎知識」が「新改訂版 繊維製品の基礎知識」としてリニューアルいたします。

JIS の改正や時代の変化に対応するとともに、衣料品の枠を超えて『繊維製品』の様々な知識を盛り込みました。

B5 版 全 3 冊

¥5.100 + 税 (税込 ¥5.610)

〈目次〉

- 第 1 部：繊維製品に関する一般知識
- 第 2 部：家庭用繊維製品の製造と品質
- 第 3 部：家庭用繊維製品の流通、消費と消費者問題



HOW TO ORDER

ご注文は HP の注文フォームより承ります。
右の QR コードよりお申込みいただけます。

改訂版をご希望の方は、注文フォームの質問欄に『新改訂版希望』と明記してください。

入金確認後、12月1日以降順次発送いたします。



一般社団法人 日本衣料管理協会
〒105-0011

東京都港区芝公園 2-11-13-205

TEL : 03-3437-6416

FAX : 03-3437-3194

<http://www.jasta1.or.jp>



目次

●新年のあいさつ	
・千曲会理事長あいさつ	2
・繊維学部長あいさつ	2
●繊維学部からの話題	
・「学部支援事業」周知活動のお礼	3
・退任挨拶	4
・新任の先生紹介	5
・研究と日常のはざままで	6
●『人生の伏線』	
・繊維学会 地球に優しい繊維材料研究委員会 2023年度シンポジウムの実施報告	7
・国際会議 1st Indo-Japan Textile Research Conference 2023 が開催されました。	8
・オープンキャンパス開催報告	9
・青少年のための科学の祭典 2023 上田大会実施報告	10
・繊維学部保護者会について	11
・令和6年度・2024年度 ホームカミングデー開催のお知らせ	11
・「シルク時空をこえて」鑑賞後感	12
・学会受賞	12
・学部人事異動	13
・繊維学部の入試について	13
●学生からの話題	
・「JCK」と「JCTCS」の参加を振り返って	15
・信州大学次世代高度人材「地域発志士」育成 プログラムにおける「第4回信州多聞塾」について	16
・「軍手ィ」15年目の飛躍 カギはお祭りで 地域活性「軍手ィマルシェ」	17
・信州大学基礎スキー部の活動について	18
・東雲祭 開催報告	19
・サークル紹介	20
●演劇サークル「六連銭」	
●ラクロス部	
・学生の学会受賞	23
●会員からの話題	
・ヒトの美と健康を考える(9)	24
・弁理士の魅力(2)	26
・老顧問のつぶやき	27
・ホームカミングデーに参加して	28
・「不良学生が公認会計士試験に合格するまで」	29
・長野県から発酵食の魅力を発信するため、 「発酵バレー NAGANO」を発足しました!	30
●クラス会・同門会	
・学工24(昭和51年卒)‘鱧会’報告	32
・学工17(昭和44年卒)クラス会	33
・北條先生を偲ぶ会の開催	33
・信濃路会 関西在住、 水環境コースを学んだ者の会	34
・18会(学工18回卒クラス会)開催の報告	35
・50年目の化学工学科7回生クラス会	35
・繊維農学科(学農21期)2023年同級会	36
・繊維機械学科10回生(昭和45年入学) クラス会の開催	37
・2023年度 S48年卒業同期会報告	38
・最後の同級会 学化11	38
・第22回修己寮同窓会の報告	39
●支会だより	
・2023年の上小支会ハイキング記	40
・南信支会 令和5年度総会報告	40
・東京支会総会4年ぶり開催!	41
・令和5年度 愛知支会総会が盛会に行われた	42
・令和5年度 千曲会茨城支会総会報告	42
・2023年11月18日 近畿支会 若手勉強会を開催しました	43
・令和5年度三重支会 活動報告	43
●年賀広告	44
●千曲会からの話題	
・一般社団法人千曲会 理事会報告	47
・千曲会中国支部同窓会の参加を振り返って	48
・予告	50
・常楽寺の学徒出陣戦没学生鎮魂之碑への参拝	50
・遺贈品寄贈 竹内善吾氏(蚕14)所蔵の 卒業アルバムと記念バッジ	51
・行事予定	51
●事務局より	
・会費領収	52
・保護者(学生)会費納入者	53
・維持支援金領収	53
・物故会員	54
・事務局のつぶやき(20)	54
・龍の子太郎と信州	55
・広告掲載のお礼とお願い	55
・投稿される方へ	56
・編集後記	

表紙の写真

撮影場所は東御市芸術村区の芝生広場。この付近一帯が公園になっています。天気の良い午前なのに偶然目にした大きな虹。明るい日差しの中でも鮮やかに色濃く美しく見えました。しかも向きがいつも見ている虹とは反対なので、これはいったい何だと思わずカメラを取りに帰り撮ったものです。逆さ虹、環天頂アークともいうらしいです。吉兆とも。カメラはキャノンのixy。撮影日2019.4.28。

石坂征洋(学農18)

新年のあいさつ

千曲会理事長あいさつ

信州大学繊維学部同窓会 一般社団法人千曲会
理事長 夏目 駿一 (学化15)



明けましておめでとうございます。会員の皆様には益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。本年も千曲会と千曲会報をよろしくお願いいたします。

令和の治世も6年目を迎えることとなりましたが振り返ってみますと令和元年の台風被害に始まり翌年には人類を恐怖に曝した新型コロナウイルスのパンデミックそして地球温暖化によると云われる線状降水帯が全国で続出しました。海外では一昨年世界に衝撃をもたらしたロシアのウクライナ侵攻さらに昨年はイスラエルとパレスチナ自治区ガザ戦闘と痛ましい出来事が相次いだ年月でした。これらの争いが収束に向かい平和で穏やかな一年になることを皆様とともに祈りたいと思います。

このような中千曲会は新型コロナウイルス感染の5類移行に伴い状況を見ながら感染防止対策に務めての対面方式、オンライン方式あるいはこの双方のハイブリッド方式など適切な形で活動を進めてきました。とくに定期総会、ホームカミングデーは4年振りに対面方式主体で開催することができました。感染の波を乗り越えてきた日々世の動きも人々の考え方も変わり活動を復活するのは予想以上の模索が

必要でした。これらを学部の教職員の方々、千曲会役員はじめ参加された会員の皆様方のご協力で計画通り実施できましたことに厚く御礼申し上げます。

加えて支会活動・クラス会等の交流も徐々に回復しつつある事と会報編集委員自らの寄稿も多くあり会報に明るい記事が増えており喜ばしい一年でもありました。

理事長としての重責を担い3年が経ちました。百数年にわたり同窓会が続けてこられたのは会員皆様の母校によせる温かな気持ちの賜物であると実感しました。

歴史を重んじ伝統を守り継承していく事を大切にして新しい時代に対応することも考えなければなりません。その機会として2025年は繊維学部開校115周年同窓会(千曲会)設立110周年を迎えます。この二つの周年記念事業を合同でホームカミングデーに併せて開催する企画をたて準備委員会を発足しました。具体的な計画が出来次第ご案内いたしますのでお楽しみにお待ちください。

周年事業準備委員会のメンバーには大変ご苦勞をおかけしますがまずもって御礼を申し上げたいと思います。

会員の皆様にとりまして実りの多い一年となることを心から祈念しまして年頭の挨拶とさせていただきます。

繊維学部長あいさつ

信州大学繊維学部学部長
森川 英明 (学工30)

「繊維学部のコアコンピタンスと卒業生のコンピテンシー」



謹んで新春のお祝いを申し上げます。同窓会千曲会会員の皆さまにおかれましては、お健やかに過ごしの事とお慶びを申し上げます。常日頃から繊維学部の教育・研究活動や多くの在学生に対して、さまざまな形でご支援やご協力をいただきありがとうございます。あらためまして心から御礼を申し上げます。

昨年は、コロナ禍は落ち着きをみせたものの、気候変動や国際情勢など環境・生活・社会・経済面で困難を痛感する一年でした。大学も社会から更なる研究の先鋭化や成果の社会実装、また新たな時代に向けた多様な教育の在り方が要請され、繊維学部でも研究・教育を基軸に産学官連携、国際連携、入試制度・広報、キャンパス整備などいくつもの改革を進めてきました。

その中であって、昨年は特に卒業生の皆さまの力を実感した一年でありました。たくさんありますがここでは四つのことについてお話をしたいと思います。

一つは8月に起ち上げた「繊維産業におけるLCA人材育成コンソーシアム」において、藤吉一

隆さん(学工30)、枝村正芳さん(システム7)に特任教授に就任いただき、村上泰教授と共にこのコンソーシアムを引っ張って頂きました。本取り組みでは四つの繊維検査機関の連携が重要なキーになりますが、それぞれの機関ではたくさんの卒業生が活躍しておられることからメンバーのコミュニケーションも良く、高いモチベーションを維持しつつ繊維産業の未来に向けた新たな取り組みを進めて頂いています。

二つ目は9月に蘇州大学で開かれた中国千曲会の会合で、中国国内外から50名を超える卒業生(留学生)が集まられたことです。日本からは千曲会の大山芳男副理事長(学工18)、高寺政行副理事長(学工29)や繊維学部の複数の先生方が参加され、懇親と共に千曲会と中国千曲会との連携・協力体制について熱心に話し合われました。中国に戻られた卒業生の多くは蘇州大学や西南大学、清華大学、南通大学などで教授陣さらに学長や副学長として活躍されており、また起業や経営層として産業界で活躍されている卒業生もたくさん居られます。今後、中国だけでなく海外で活躍する卒業生と千曲会・繊維学部で太いパイプを作って行ければと思います。

三つ目は11月に講堂で上映しました映画「シルク 時空をこえて」のことになります。この映画は日本の近代化を支えた蚕糸業を、歴史としての時間

軸と地球規模での空間軸からドキュメンタリーとして制作されたもので、嶋崎昭典名誉教授(糸36)が監修を務められています。映画の中には蚕糸に係わられた数多くの人々やトピックスがちりばめられていますが、その中に上田地域や官立上田蚕糸専門学校、さらに卒業生も登場します。講堂での上映会は在学生や教職員だけでなく退官された先生方にも多数お越し頂きましたが、皆さんが感動され、上映後も熊谷友幸監督も交えて上田蚕糸専門学校の日本蚕糸業における重要性などの話題に花が咲きました。

四つ目は12月に講堂で開催しました「信州大学男女共同参画セミナー」です。女性の新たな働き方を見据えた先取的な事業を上田市内に持ち上げ、内閣府など複数の委員として発信もされている井上拓磨さん(素化12)、森美術館の事業開発担当として国内外の美術分野で活躍されている品川知子さん(感性4)にパネラーとして話しをして頂きました。それぞれ異色の卒業生として輝きを放っておられ、繊維学部生独特のコンピテンシーと感じました。

卒業生の活躍が大学を支えます。繊維学部はこれからもその原点と歴史を大切に、世界的にもユニークで独創性ある高等教育・研究機関としての位置を維持しつつ、数多くの分野で活躍される卒業生の皆さんと未来に向けて進んで行きたいと思っています。

繊維学部からの話題

「学部支援事業」周知活動のお礼

謹啓 時下ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。平素は本学部の運営に関しまして、格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、令和4年4月に新たに設置しました「学部支援事業」につきましては、同窓会会報誌へのパンフレットの同封など、支援事業の周知等にあたりご協力を賜り誠にありがとうございました。ご寄付を頂きました方のご芳名を別紙にてお送りいたしますので、ご査収くださいますようお願いいたします。略儀ながら、書中をもって厚くお礼申し上げますとともに、今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。 謹白

別紙 令和4年度「学部支援事業」寄付者一覧

山本 宏	夏目 駿一	坂元 龍三	岩崎 淳子	浜村 敏雄	佐藤 栄作
大山 芳男	西山 宏	成澤 功	伊藤 忠	浅海 浩	湯澤 慶彦
井関 美穂	池田 紘二	尾崎 彰	川口 拓郎	中大路耕平	神立 均
竹花 実男	山本 光雄	亀山 浩一	斉田 新次	古谷 隆男	鈴木 静治
松原 喜光	村山 定光	湯本 恭自	渡辺 嘉明	畑 昌樹	杉本桂太郎
金城 辰三	吉玉 拓生	高澤 真一	上山 拓史	松下 勉	加藤 伸
約田 昌幸	森田 進	板根 篤史	下山 拓男		

退任挨拶

信州大学繊維学部と千曲会への感謝 ありがとうございました

前機械・ロボット学科 教授 鮑 力民

2023年3月31日をもって、信州大学繊維学部を定年退職いたしました。私は中国大学の修士を修了し、5年間の大学講師を経て、1990年10月に来日し（研究生として）、繊維学部とのかかわりが始まりました。四季に飾る花と大木、静かなキャンパス、熱心に学問を励む研究者たち、外国人とやさしく接する日本の皆様、ここから感動し、常田キャンパスを好きになりました。その後、1991年4月信州大学の博士課程に入学し、篠原昭教授の丁寧な指導の下に1994年3月に博士（工学）の学位を取得後、信州大学繊維学部採用されまして、教員になりました。

中国にいたときの研究分野は繊維機械で、特にシャトル織機の構造について対象としていました。来日後、織物力学権威の篠原教授からのすすめにより、布の静的及び動的な変形に関する研究に取り組みました。織物に変形する際、今までの弾塑性力学の手法で解析した結果と実験値とに大きな乖離があり、布の変形のシミュレーションをする場合などに大きな障害になっていました。私たちは織物の非線形力学モデルを提案して布の非線形パラメータを同定し、非線形大変形有限要素法を取り入れて、数値解析を行いました。当時パソコンはまた8ビットDOSの時代で、C言語でプログラムを自作し、何日も徹夜をして、計算しました。また、布の静的な変形と動的な変形実験をおこない、提案手法で解析した結果と実験値とが一致し、方法の有効性が確認されました。博士課程で発表した一連の論文（4編）が評価されて、繊維学会論文賞を受賞することができました。先生のおかげで、弾塑性力学と連続体力学を身につけることができ、その後の仕事の基礎になりました。

教員になってから、産業用繊維構造体の力学解析と各種繊維新構造材料（例：塵をはたき落としやすく、損傷しにくいごみ焼却炉の集塵用バグフィルター）の開発、バイオミメティック・デザインによる高強度軽量繊維強化プラスチック（FRP）構造体の開発、高強度が可能な連続繊維強化熱可塑性プラスチック（FRTP）の成形法の実現、FRPのエロージョンメカニズムの解明と高強度かつエロージョン



も強いFRPの創製、再利用価値を重視した持続可能なCFRP/CFRTPのリサイクル方法、繊維工学の技術を融合した高力学特性をもつ先進複合材料の設計と開発、高強度グリーンコンポジットの開発、メカニカルハザード用の防護服材料の新構造などに取り組み、一連の研究を行いました。筆頭著者の有審査論文は73編で、信州大学に奉職以来、平均2.6編/年発表することができました。国内外で論文賞は5回いただきました。これらの成果も、繊維学部の自由な雰囲気の研究環境と周りの先生たちのご支援の賜物です。これまで繊維学部の半分以上の年長先生のところに伺っては、研究について、ご教授、アドバイスを貰いました。今も日本語の論文と研究費申請文を添削していただいています。教員になってからも一つ有意義なことは、優秀な学生との出会いです。彼らは私に、日本語・日本事情・若い方の考え・研究の新発想などをいろいろ教えてくれました。写真は2023年3月修士修了式後の記念写真です。彼らは私とともに努力して、世界で初めてグリーンコンポジットのエロージョン損傷のメカニズムを解明、世界で初めて布の面内圧縮特性の測定方法を開発し布面内のヤング率を測定、世界で初めて高圧ジェット水流洗浄作業用の柔軟かつ高い防護性を持つ材料の開発に成功、世界で初めて金属性能を超える完全竹由来の高強度グリーン材料作製法を開発、……。研究室に所属した学生は論文発表講演賞、ポスター賞を15回受賞しました。学生のみなさまに感謝し、引き続き会社・大学でのご活躍を祈っています。

在職中、同窓会の千曲会から大変お世話になりました。私は日本の会社に就職した経験がなく、日本の会社の事情もよくわかりませんでした。機能機械学コースの学生就職担当教授を担当する際、かなり戸惑いました。その時に千曲会の力を借りて、学生の興味ある会社にいる繊維学部卒業生を訪問し、在学生の応援を依頼しました。彼らは手弁当で、学生

に説明会を開き、会社が求められている人物像や面接対応の方法など生きた情報を詳細に教えてくれました。学生たちの就職活動に向けた対策と自信をアップさせることができましたと思います。学生就職活動中には、卒業生は私とともに会社人事担当にこれまでの繊維学部卒業生の活躍をアピールすることで、バックアップを行いました。結果、機能機械学コースではほぼ全員の学生が就職することができ就職担当教員として一安心することができました。就職担当の3年間で、機能機械学コースで人気がある

自動車会社では、T社は2名（大学推薦枠が1）/年、H社は連続3年で3名/年（大学推薦枠が1）入社したのはその一例です。

32年間無事に充実した繊維学部での研究教育生活ができたのは、先生方、職員方、千曲会の皆様のご指導とご理解とご支援のおかげです。深く感謝申し上げます。これからも引き続き上田におりますので、近くより今後繊維学部の発展と成長を見守っていきたいと思います。ありがとうございました。

新任の先生紹介

照月 大悟 准教授

2018年3月 東京大学大学院 工学系研究科 先端学際工学専攻 博士課程修了 博士（工学）。東京大学先端科学技術研究センター特任助教、東北大学大学院工学研究科助教を経て2023年10月より繊維学部機械・ロボット学科バイオエンジニアリングコースに着任。研究分野はバイオハイブリッド工学。



2023年10月1日付で繊維学部機械・ロボット学科バイオエンジニアリングコースの准教授に着任致しました。照月大悟と申します。どうぞよろしくお願い致します。

まずは自己紹介をさせていただきます。出身は、日本三大花火大会の1つである長岡まつりが開催される、新潟県長岡市です。長野県のお隣の県出身ですが、長野県に来るのはこれが初めてです。お隣の県なので、長野県も雪が多い地域だとずっと思っておりましたが、上田市の場合は晴天率が全国的に見ても高く、雪がほとんど積もらない、と聞いて驚いております。長岡市は雨がずいぶん降りますし、雪も結構積もる地域です。引っ越してきてから2ヵ月、大変過ごしやすく感じております。

次に、アカデミックキャリアと研究内容についてご紹介します。私は2018年3月に東京大学大学院工学系研究科先端学際工学専攻にて、神崎亮平先生（カイコガに関する幅広い研究で著名）の下で博士号を取得しました。同年4月より東京大学先端科学技術研究センター特任研究員、同年11月より特任助教、2021年11月から東北大学大学院工学研究科助教として勤務した後、本学に着任致しました。私の主な研究テーマは、生体と機械の融合を図るバイオハイブリッド工学です。機械・ロボット学科では、昆虫の嗅覚機能を機械と融合したバイオハイブリッド匂いセンサ・匂い源探索ロボットの開発を主眼に、バイオハイブリッドロボ

ティクス研究室を運営していく予定です。

バイオハイブリッド工学を研究テーマとするまでは、紆余曲折がありました。自分のベースとなる学問分野は機械工学であり、学部では宇宙構造材料の研究を、修士では米国インディアナ州にあるパデュー大学（Purdue University, 宇宙飛行士の輩出率が非常に高いです）に留学し、羽ばたきロボットの研究を行っていました。羽ばたきロボットの研究は大変面白かった一方で、生物を模倣するだけでなく、部品として使ったらもっと面白くなるのではないかと考えるようになりました。そこで博士課程からは、東大先端研の神崎先生の研究室に所属し、テーマを大幅に変更して研究をスタートしました。

神崎研では、カイコガを中心とした昆虫操縦型ロボットやサイボーグ昆虫、昆虫嗅覚受容体を発現した昆虫細胞を用いた匂いセンサなど、多様な研究が展開されており、生体を直接人工物と融合するバイオハイブリッドの考え方に強く惹かれました。博論のテーマは「昆虫嗅覚受容体発現細胞と電界効果トランジスタ（FET）を融合した匂いセンサの開発」であり、これが繊維学部にて開設する研究室の主要テーマのスタートになったと言えます。博士課程修了後は、匂いセンサに加えて匂い源探索ロボットの研究にも着手し、カイコガの触角と小型ドローンを融合したバイオハイブリッドドローンを開発しました。カイコガはシルクを生み出すだけでなく、極めて優れた嗅覚（性フェロモンであるボンビコールを

検出してメスに定位する)を有しています。カイコガの触角をドローンと融合することで、ドローンは匂いを頼りに飛行することができます。これは、基幹インフラの点検や災害時の人命探査などに応用可能な、新しいセンサ・ロボット技術の構築につながると考えております。

バイオハイブリッドドローンの研究を開始してからは、カイコガ(とその触角)をより直接的に扱うようになり、この偶然が繊維学部への着任につながったと考えています。東大在籍時には、カイコガを繊維学部隣接する上田蚕種(株)から購入していた

ため、長野県はカイコガで、つまり蚕糸業で有名であることは知っておりました。しかし、自分が教員となって信州大学に着任することは全く想像しておらず、カイコガに導かれてきたようです。着任後は、昆虫機能を活用する研究によって得られたこの機会を存分に活かし、幅広くバイオハイブリッド工学の研究に取り組みたいと考えております。そして、繊維学部、さらには長野県への貢献にもつながるよう努力していく所存です。今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

研究と日常のはざままで

『人生の伏線』

繊維学部 技術職員 高坂 拓史 (織工課6)

2022年8月より技術職員とし繊維学部で働かせていただいております、高坂拓史と申します。現在は繊維学部の職員ですが繊維学部のOBでもあります。2013年に先進繊維工学課程に入学、大学院進学を経て2019年に修了・染色整理メーカーに就職しました。3年ほど染色の現場で働いた後、再度、繊維学部にお世話になることとなりました。現時点では技術部最年少という立場と学生時代からお世話になっているという流れを隠れ蓑に、私のいたらない点も大目に見てもらっているような気がします。そんなギリギリ20代な私ですが、人生的には1/3が過ぎたところでしょう。物語で例えるのであれば起承転結の起が済み、転結に向けて伏線を仕込んでいる承の部分とも言えます。ただ承の割に伏線回収が多いような気がします。

高校時代はテニス部でした。大会で対戦した県内有力選手から振り遅れでリターンエースをとるというハイライトはありましたが、大して上達せず部活を引退しました。大学では演劇サークルに入ったため基本テニスをする機会がなく、たまにやった時には強めの捻挫をする始末であったため、自分からテニスしようという気はなくなっていました。しかし、社会人になるとテニスがコミュニケーションツールとして機能しました。どちらかといえばマイナスな印象がついていたテニスですが部活を引退して数年たってからプラスな働きを見せてくれました。見事な伏線でした。

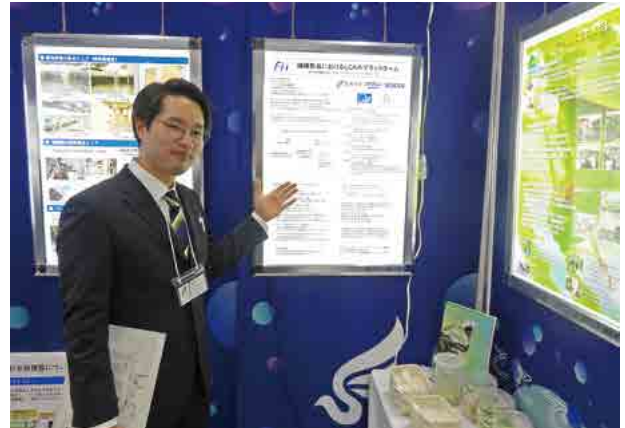
今日までで一番大きかった伏線はというと幼少期に水泳を習っていたことでしょうか。子供の習い事として人気のスイミングスクールに私も幼稚園の頃

から通っておりましたが、小学生時代は引っ越しが多く、引っ越しのたびにスイミングスクールに入りなおしていました。スイミングスクールでは違う学年・学校の友人ができますので、子供ながらに水泳という競技にも思い入れが生まれました。また子供らしく「将来は水泳選手になりたい」などと夢を持ち、中学校では水泳部に入りましたが自分はそこまで泳ぎが速くないことを思い知らされました。しかし、当時は高速水着が話題となっていたため、「じゃあ水着を開発して、それを着た選手に金メダルを獲ってもらおう」と思ったのが繊維学部を目指したきっかけです。無事に入学・卒業し、新卒で就職した前職は水着やスポーツウェアのメーカーでこそありませんでしたが、生地の手拭きなども行っていたので多少は水着に関わるようなことができていたのかもしれない。現在は再び繊維学部にお世話になっているわけですが、繊維学部に入學していなければ大学の技術職員という職種は知り得なかったでしょう。幼少期の水泳が伏線となって今の私の仕事に導いてくれたと言えるでしょう。

その他にも細々した伏線回収はありますが、結局は今の経験が後の人生で役に立つのかはわからないのだと思います。先を見据えて行動できる人にも憧れはありますが、何気ない生活の中で「あれは伏線だったんだな」と思える瞬間があることも面白いと感じます。写真は昨年11月に福井で行われた北陸ヤーンフェア2023に参加した際の写真です。繊維学部としてブースを出展しており、私は展示の紹介していました。写真で指しているポスターは私が携わらせていただいているプロジェクトのもので、プロジェクトに参加するきっかけは、『前職で染色の現場にいた経験からお声がけいただいたこと』、『個人的に環境配慮やSDGsという言葉に対し

て胡散臭さ感じる程度には環境問題に関心があったこと』なのですが、ここでも『前職』や『関心があった』という伏線が回収されています。もしかしたらこのプロジェクトへの参加が伏線になっているかもしれないし、なってないかもしれないです。

良い話風にまとめましたが、最後に私を形成する上で欠かせない要素を紹介します。それが演劇です。ここまでで半ば強引に伏線回収と言ってきたのも演劇につなげるためです。先でも申しましたが、演劇サークルに所属しておりました。どれだけの方がご存知かわかりませんが、繊維学部には劇団六連銭という演劇サークルがあります。1学部のサークルですので常に人材不足に悩まされておりますが、昨年の東雲祭では数年ぶりに公演を行っていたしました。大学で演劇にドハマりしたため卒業後も演劇をする機会を探していたのですが、この度、上田に



て劇団を立ち上げることとなりました。表現集団 Esperanza という名前です。今年3月に旗揚げ公演を予定しております。もしご興味ございましたら、応援のほどよろしく願いいたします。

繊維学会 地球に優しい繊維材料研究委員会 2023年度シンポジウムの実施報告

信州大学繊維学部 応用生物科学科 矢澤健二郎

令和5年9月19日(火)の午後に、繊維学会 地球に優しい繊維材料研究委員会 2023年度シンポジウムを上田キャンパスの総合研究棟7階にて実施致しました。地球に優しい繊維材料研究委員会は、繊維材料を中心に、地球環境や生体に対して負の影響を与えない材料設計、合成加工法、分解性および毒性評価などの観点から産官学が協力することで、地球に優しい繊維材料を開発する知見を得ることを目的として、2022年に設立されました。しかし、新型コロナウイルス感染症の蔓延のため、対面でのシンポジウムの開催は、今回が初めてとなりました。参加者は合計41名で、学生の参加者は23名でした。

シンポジウムの冒頭には、委員長である沼田圭司先生(京都大学)から、開催の主旨として、高分子材料の環境分解、生体内分解、バイオ高分子の合成や材料設計を議論する意義に関する説明がなされました。続いて、高原淳先生(九州大学)による「繊維高分子材料の環境劣化と高次構造変化」の講演が行われました。マイクロプラスチック化のモデル実験として光酸化と力学刺激により生成した欠片の構造評価の内容をはじめとして、活発な質疑討論が行われました。続いて、橋本朋子先生(信州大学)による「環境やヒトに優しいシルクの高機能化と医用

材料としての展開」の講演が行われました。天然シルクの優れた性質を低減させることなく、シルクに新たな機能性を付与した講演の内容について多くの討論が行われました。その後、上田キャンパスの真綿・蚕糸館の見学ツアーが開催されました。

シンポジウムの後半では、中村浩之先生(スパイバー株式会社)の「持続可能な社会への貢献を目指したタンパク質素材“Brewed Protein”」の講演が行われました。スパイバー株式会社は、タンパク質素材の実用化を目指す山形県鶴岡市に2007年に設立された企業です。植物由来の原料をもとに微生物発酵によって作られる構造タンパク質素材に関する講演に多くの関心が寄せられました。その後、土屋康佑先生(東京大学)による「環境にやさしい酵素合成を利用した高分子材料の創製」の講演で、酵素を利用してアミノ酸を結合させていくという革新的な発想は非常に興味深いものでした。続いて、12件のポスター発表が開催され、大変活発な議論が行われました。

以上、会員の皆様にご報告申し上げますと共に、繊維学会 地球に優しい繊維材料研究委員会の幹事を代表して、皆様の御協力に心より御礼申し上げます。

国際会議 1st Indo-Japan Textile Research Conference 2023 が開催されました。

国際会議 1st Indo-Japan Textile Research Conference 2023 (IJTRC2023) がインドのインド工科大学デリー校 (IIT Delhi) で11月27日、28日の二日間開催されました。本国際会議は繊維学部と、学部間学術交流協定校である IIT Delhi との共催によるもので、繊維学部からは森川英明学部長、大川浩作教授、小林俊一教授、高寺政行教授、金旻屋准教授、GOPIRAMAN Mayakrishnan 特任准教授、および、博士課程の山下拓磨 (田中研)、修士課程進繊維工学ユニットの間美羽 (大越研)、谷本悠紀 (大越研)、大澤奈歩 (森川研) の学生諸君が参加しました (写真)。

会議は2日間にわたり12件の基調講演、約60件の口頭発表と48件のポスター発表が行われました。参加者はインド、日本だけでなく、チェコ、ドイツ、米国、ベトナムなど世界各国から総勢300名以上のことでした。

初日の開会式では、IIT Delhi 校長の Rangan Banerjee 教授に森川学部長から記念品の贈呈が行われました (写真)。続いて、森川学部長による繊維学部の紹介、大川教授による基調講演が行われました。研究発表は繊維強化複合材料を始め、伝統テキスタイル (藕絲や Jot Patti) やマーケティングなど幅広い内容でした。参加学生はいずれも口頭発表またはポスター発表を行い、活発に質問するインドの学生や研究者に対して、一生懸命回答していました。また、テーブルークや会議後の食事時間などに IIT の学生や研究者との交流も積極的に行っており、研究発表だけでなく、国際交流の機会として極めて有意義なものでした。

初日には優秀ポスター賞の表彰があり、谷本悠紀君が3等賞を受賞しました (写真)。2日目の会議終了後、IIT 側の主催者の B. K. Behera 教授の研究室 (3D Lab) の見学会が行われました。複合材料用の3次元織機や最新の測定機が設備されており、博士課程学生15名が複合材料の研究を推進しているとのことでした。

会議の翌日は市内のアパレルメーカーの工場見学をアレンジしていただきました。欧州のスポーツブランド向けの製品を生産しており、自動化や品質管理が国際水準にあることが推察されました。ホテルへの送迎や市内見学では Behera 教授の学生達が日本側の参加者を明るく親切にサポートしてくれました。彼らは、2022年10月に教授とともに上田キャンパスを訪問しました。その際、施設を見学し、千曲会館で宿泊しました。

IIT Delhi はインドの国立工科大学 (IIT) の中で唯一繊維学部を持つ大学で、信州大学繊維学部では留学生の受け入れや共同研究、講義への招へい等の交流実績があります。インドは急速な発展のため、深刻な大気汚染 (視界100m)、交通渋滞 (自動車販売台数は日本を抜いた)、衛生環境や格差社会などの課題がありますが、人口が世界最大となり、繊維産業も盛んで、今後のさらなる発展が期待されます。IIT Delhi を始めとするインドと信州大学繊維学部との学術国際交流は今後ますます重要になるものと思われます。特に辛いものと甘いものが大好きな人にはお勧めです。 (文責 高寺)



会場前で学生参加者の記念写真



森川学部長から IIT Delhi Rangan Banerjee 校長に記念品の贈呈

オープンキャンパス開催報告

2023年度オープンキャンパス運営委員会委員長 小関 道彦

文部科学省による学校基本調査によれば、2022年度の大学進学率は前年度から1.7%増の56.6%だったそうです。この数値は過去最高とのことですが、一方で、18歳人口は112万1285人で前年より1万9855人減少しているとのこと。進学率が高まってもその母数が減少する少子化の世の中で、大学は生き残りをかけて受験生を確保する必要があります。

さて、私たちの職場の名称が日本で唯一の「繊維学部」であることには、メリットだけでなくデメリットもあることを時々強く感じます。デメリットの中で最も大きなものは、非常に幅広い学問分野を繊維学部では扱っていることを高校生がイメージしにくいことかもしれません。上述のように受験人口が減少する中、優秀な学生を確保するためには、繊維学部の良さを広くアピールして多くの高校生が繊維学部で学びたいと考えてくれることが重要となります。そこで繊維学部では毎年、夏と秋の2回のオープンキャンパスを開催し、多くの高校生と直接対話することを大切にしています。

2020年からのコロナ禍により、ここ数年はオンラインでのオープンキャンパスが続いていましたが、昨年の秋から対面開催を再開し、本年、久しぶりに夏・秋ともに対面で開催することができました。また、新たな試みもありましたので本誌にてご報告させていただきます。

オープンキャンパスのことを全く知らない読者もいらっしゃるかもしれませんので、はじめにコロナ禍前のオープンキャンパスの進め方について概説します。繊維学部のオープンキャンパスでは、一日を数回に分割し、それぞれを学部長による学部説明→学科長による学科説明→学科ごとのイベント、という流れで行って来ました。ここで、以前のオープンキャンパスでは全参加者をキャンパス内で最も広い部屋に集めて学部長の話を30分ほど対面で聴講し、その後、学科ごとの部屋に移動して学科長から話を聞き、そのあとキャンパス内に散らばって研究室を見学したり模擬講義を受講したりキャンパスツアーに参加したり、といった流れでした。しかし、開催前には学科間の調整をしながら運営方法を審議する必要があります、その運営はなかなか負担の大きいものでした。また、キャンパス内で最も広い部屋があるのは、キャンパス内で最も高い建物である総合研究棟の最上階(7階)なのです。一基しかないエレベ-

タで全参加者を運ばなければならないこと、この部屋でもキャパシティの限界に近いことなどから、感染症対策に敏感になっている昨今ではなんらかの対応が求められていました。

コロナ禍が落ち着きを見せ始めた2022年秋から再開した対面形式のオープンキャンパスでは従来の問題解決と内容の充実をはかりました。まず、参加者の動線の短縮と密集の回避を目指しました。参加者にははじめからお目当ての学科の説明会場(最大収容人数が100名程度の講義室)に集合してもらい、学部全体の紹介については学部長が別室にて語る説明をスクリーン越しに聴講してもらう形式としました。参加者と学部長が対面できないことが残念ですが、参加者の負担軽減、時間の効率化などのメリットは大きいものです。この方法はコロナ蔓延期に培ったオンライン会議の技術活用でもあります。次に、あらかじめ定めた時間枠を学科ごとに自由に使ってもらう形式とすることで、事前準備の簡素化をはかりました。さらに、イマサラではありますがホームページによる情報発信を大幅に充実させました。

最も大きな変化は、2023年秋のオープンキャンパスを学園祭(東雲祭)と同日開催したことです。教員主導で開催するオープンキャンパスは、学生主導である東雲祭とは運営組織が異なります。10年ほど前にオープンキャンパスと東雲祭を同日開催したことがありますが、相互の意思疎通が不十分なためうまく運営できずトラブルが多発してしまい、その後は別々に開催されていました。今回は、東雲祭実行委員の打ち合わせに筆者(小関)も参加してもらい、相互の準備段階から情報連絡を密に行いました。それにより、野外ステージの設置位置やタイムスケジュールのすり合わせを含め、相互にリスペクトしながら運営できたと考えています。本誌には東雲祭を開催した実行委員長による記事も掲載されています。ぜひそちらもご参照ください。

最後に、オープンキャンパスも東雲祭も、繊維学部を盛り上げる「お祭り」であると言えます。本年度のお祭りの開催を通じて教職員と学生の距離を近づけることができました。この関係がさらに発展し、近い将来には一体化(東雲祭の一要素としてのオープンキャンパスの開催)につながればよいと考えています。

青少年のための科学の祭典 2023 上田大会実施報告

副事務長 藤原 詩織

令和5年8月9日、信州大学繊維学部で、青少年のための科学の祭典 2023 上田大会を開催いたしました。

青少年のための科学の祭典は、科学技術の楽しさや面白さ、発見の喜びや感動を一人でも多くの青少年に体験してもらうことを目的とした全国的な活動で、長野県では信州大学の5学部（工学部、繊維学部、教育学部、農学部、理学部）が順番に担当部局となり、毎年会場を変えて実施しています。

コロナ禍で中断した時期があったため、繊維学部（上田キャンパス）では平成28年以来、7年ぶりの開催となりました。

当日は講義棟を中心に56のブースを設置しましたが、中でも目玉となったのが、繊維学部ならではの特別企画、『セニイから服ができるまで』です。繊維から糸、糸から布、布から服をどのように作るのかという一連の流れを、下記の全7ブースで実験・体験できるように工夫しました。

- 1-1: シルクを吐くカイコの観察～無料配布中～
- 1-2: どうしてセニイが糸になるの？ 糸づくり体験!
- 1-3: 調理器具を使って繊維を作ってみよう
- 1-4: かき氷のシロップで布を染めよう
- 1-5: 織物コースター（コップの下に敷く布）をつくろう
- 1-6: 体にフィットする服をデザインしよう
- 1-7: 繊維（せんい）のかたちをデジタルマイクロスコープで見よう

1-1では実際に生きている蚕を観察できるようにした他、希望者に熟蚕と桑のセットを無料配布したため、来場者にとって非常に印象が強かったようで、「蚕を触るのは約半世紀ぶり、とても可愛かった。色々な質問に答えてくださり、蚕にまつわる謎

が解けた。」等の感想を頂きました。1-2では繭や綿から糸を作る体験を行った他、ナノファイバー等最先端の研究にも繋がる「細い繊維を作る技術」の身近な例として綿菓子作りを行い、子どもたちに好評でした。

特別企画以外のブースでは、「化学」「物理」「生物」「体験」「ものづくり」の区分があり、「化学」ではアルコール燃料ロケット、食べ物を使った電池等、「物理」では紙コップブーメラン、滑車を使ったクライミング等、「生物」では光る生物の展示等がありました。

「体験」ではファイバーを使って水を綺麗にする体験、ロボットを使ってゴミを集めるスカベンジャー競技体験などがあり、ロボットに関心を持つ子どもたちが多かったようです。

「ものづくり」では3Dスキャンでオリジナルお面を作ったり、ペーパークラフトで風車を作ったりする企画がありました。

ブースの開設にあたっては、繊維学部の教員だけではなく、技術部からも多くの出展があり、学生も多数スタッフとして参加しました。他学部、他大学、中学校、高校、県外の科学団体等からの出展もあり、出展者及びスタッフは約200名になりました。

当日は近隣の小中学生及びその保護者の方を中心に671人の方にご来場いただき、盛況のうちに終了することができました。

なお、開催にあたっては、繊維学部の教職員で組織した上田大会実行委員会と日本科学技術振興財団が主催となり、全国及び県内の各種団体に協賛及び後援を頂きましたが、千曲会と長野県産業振興機構には特に共催団体としてご参加いただき、運営に多大なるご支援をいただきました。末尾となりましたが、厚く御礼申し上げます。



繊維学部保護者会について

令和5年度・2023年度の繊維学部の保護者会が、2023年9月30日（土曜）13:00～15:10にてオンラインで実施されました。保護者会とは、在学生の父母、保護者の方々に、繊維学部から大学の現状を説明し、研究・教育活動、進学・就職に関して理解を深めてもらうための機会を指します。昨年度2月（2023年2月4日（土曜））での保護者会とほぼ同じ内容で、千曲会の役割なども紹介されました。

第1部の学部全体会では、学部の教育方針、進学・就職の説明、千曲会の説明などがあり、学部全体の説明終了後、第2部の学科別会では、各学科に分かれ、学科の教育内容、学科に対する質疑応答などがありました。Zoomによるオンライン開催ではありましたが、学部全体会には112名、学科別では24

から43名の参加者がありました。保護者会は、主に新入生の保護者の方から大学に対する不明な点や疑問を質問していただく機会になっていますが、参加者は学部1年生の保護者の方だけでなく、修士1年生の保護者の方も参加されていました。また、学部の教育に関する質問だけでなく、大学院進学に向けた入試対策、研究室での生活環境、就職活動・海外留学に関する質問まで多岐にわたっていました。特に、先進繊維・感性工学科では、留学に関心を持った保護者からの質問が多く、留学に向けた準備や留学状況などについて質問がありました。

保護者会は、新入生の保護者を対象にしていますが、千曲会報をご覧いただいている保護者の方で、日頃から大学に疑問を抱えていることがあれば、このような機会を設けておりますので、気軽に参加していただき、質問や意見をいただければと思います。よろしくお願いたします。（田中稔久）

令和6年度・2024年度 ホームカミングデー開催のお知らせ



令和5年度・2023年度ホームカミングデーは、2023年10月21日（土）（土曜）に無事開催されました。午前中は繊維の未来を考えるという座談会を藤吉一隆さん（学工30）、枝村正芳さん（システム7）をお招きし、森川学部長、村上教授の4名で行われました。昼食の懇親会をはさんで、午後は「つながるひろがる」と題して、枝村正芳さん（システム7）、吉川茂利さん（機高5）、堀修さん（学農21）、大山芳男さん（学工18）、松本若菜さん（応化課6）、星野伸男さん（学工18）、石坂征洋さん（学農18）等からスピーチがありました。約130名ほどの参加者でした。

今回のホームカミングデーへの皆様の積極的なご参加を検討していただくため、開催予定日を早めにお知らせいたします。来年度の開催は、以下の日程を予定しております。

2024年10月19日（土曜）（予定）

「ホームカミングデー」とは、卒業生同士、および卒業生と学部とのつながりを強化するためのイベントを意味していますが、もちろん、現役学生や保護者の方々、学部に携わる全ての方々の参加を歓迎しております。詳細に関しては、次号の千曲会報、および千曲会のホームページにて、随時、情報を提供していく予定ですので、ぜひご覧ください。

千曲会設立100周年記念事業により改修され、上田市指定有形文化財となりました「旧千曲会館」、日本真綿協会からの協力事業による「真綿・蚕糸館」の建設、「グラウンドの芝生化」による緑地整備など、繊維学部キャンパスは、日々変容しており、その変化をこの機会にご覧になりませんか？



上田 第一ホテル

JR上田駅より500M

〒386-0012 上田市中央2-6-13

Tel 0268-23-0011

FAX 0268-25-0434

また、ホームカミングデーへの参加だけでなく、これを機会にコロナ禍で疎遠になってしまった友人・先輩・後輩・恩師との「交流会」や「クラス会」などを計画されるのは如何でしょうか？

参加者の皆様方において交流する良い機会となりますよう、関係者一同準備を整えてお待ちしております。多くの皆様のご参加を、謹んでお願い申し上げます。

「シルク時空をこえて」鑑賞後感

先進繊維・感性工学科 朱 春紅

2023年11月6日に繊維学部の昭和4年（西暦1929年）築の登録有形文化財である官立上田蚕糸専門学校時代の講堂で、「シルク時空をこえて」というドキュメンタリー映画鑑賞会が開かれました。2回の上映で教職員、学生、関係者などのべ160名が鑑賞しました。

私は授業の関係で12:30からの1回目の上映に間に合わなかったのですが、16:30からの2回目の上映で観ることができました。この映画作品は、明治から大正、昭和にかけて日本のシルク産業繁栄の地である信州を中心に、飛騨、上州、横浜、福島、そしてアメリカコネチカット州のマンチェスター、フランスのリヨン、サン・ジャン・デュガールなど世界へと絹の歴史をめぐる物語です。

自分は中国蘇州大学紡織と服装工程学院出身で、その前身の蘇州絲綢工学院であり、当時のカリキュラムとして、絲綢材料学、簡明製糸学、現代品質管理工程などシルクに関する専門的で技術的な授業科目が多かったのですが、近代日本のシルク繊維の歴史

などについては上映されたこの作品から色々知ることができました。近代日本の一大製糸業地として発展された糸都-岡谷は、学科の1年生に対して学外研修で2回ほど岡谷蚕糸博物館に訪問したことがあり、工女の物語りも聞いたことがありましたが、映画作品では十代の若い女子達が寒さを凌いで岐阜県から山を越えて岡谷まで来るシーンをみて感動しました。

中国では詩人李商隱氏の詩“春蚕 死に至りて糸方に尽き”を用いて教師が蚕のように自分の命を削って他人に貢献するという献身的な精神を表しています。蚕から繭作りを勉強してから、この言葉の意味をよく理解することができました。繊維学部内には、大正12年（西暦1923年）に建立された蚕霊供養塔があります。これは蚕糸業が蚕の命の上にあることを人々に伝わっていると思います。映画作品の最後にもこのような言葉がスクリーンから映った時目が潤みました。

ドキュメンタリー映画で商業の映画館では見られないのですが、もし機会があれば、もう一度観てみたいですね。

学 会 受 賞

【受 賞】

繊維学部教員の受賞情報です。詳しくは、下記に記載した URL または QR コードからご覧ください。



■杉本 涉 教授、高坂 泰弘 准教授が令和5年度文部科学大臣表彰を受賞
<https://www.shinshu-u.ac.jp/topics/2023/06/53-1.html>

■応用生物科学科の矢澤 健二郎 准教授が繊維学会奨励賞を受賞
<https://www.shinshu-u.ac.jp/faculty/textiles/news/2023/06/175575.html>



■先進繊維・感性工学科の富澤 鍊 助教が日本繊維機械学会第76回年次大会で学術奨励賞を受賞
<https://www.shinshu-u.ac.jp/faculty/textiles/news/2023/07/175089.html>

■化学・材料学科の村井 一喜 准教授が日本セラミックス協会にて特定セッション若手優秀発表賞を受賞
<https://www.shinshu-u.ac.jp/faculty/textiles/news/2023/10/178743.html>



■国際ファイバー工学研究拠点 金翼水 教授が韓国化学工学会 学会発展賞を受賞
<https://www.shinshu-u.ac.jp/faculty/textiles/news/2023/10/180191.html>

■玉田 靖特任教授が令和5年度蚕糸功労者表彰式で蚕糸科学功績賞を受賞
<https://www.shinshu-u.ac.jp/faculty/textiles/news/2023/11/180315.html>



【繊維学部プレスリリース】

繊維学部の教職員および学生に関するプレスリリース情報です。詳しくは、下記に記載した URL または QR コードからご覧ください。

<https://www.shinshu-u.ac.jp/faculty/textiles/news/press/>



学部人事異動 (2023年5月~)

■退職

(9月30日付)

繊維学部 特任助教 川谷 諒

■採用

(8月1日付)

繊維学部 特任助教 小林 史利

(9月1日付)

繊維学部 特任准教授 武内 俊次

(10月1日付)

機械・ロボット学科 准教授 照月 大悟

■昇進

(10月1日付)

技術部 技術専門職員 岡田 祐輔

化学・材料学科 准教授 村井 一喜

繊維学部の入試について

令和6年度(2024年度)の学部入試の概要についてお知らせいたします。受験シーズンに突入いたします。お知り合いの方に受験生はいらっしゃるのでしょうか?この機会に、ぜひ繊維学部への受験を検討していただくのは如何でしょうか?

信州大学 繊維学部

令和6年度(2024年度)入試の概要

4つの入試区分

- ① 学校推薦型選抜Ⅰ(共通テストを課さない) ※4学科で実施
... 面接の参考とするための基礎学力テスト + 面接(口頭試問を含む) + 出願書類
- ② 学校推薦型選抜Ⅱ(共通テストを課す) [新規実施]
※実施は3学科(先進繊維・感性工学科、機械・ロボット学科、化学・材料学科)、応用生物科学科は実施しない
... 共通テスト(3教科4科目) + 出願書類
- ③ 前期日程 ... 共通テスト(5教科7科目) + 個別試験(数学+理科1科目、又は理科2科目) + 調査書
[共通テストの配点変更、個別試験の教科数と配点を変更]
- ④ 後期日程 ... 共通テスト(5教科7科目) + 個別試験(数学+理科1科目) + 調査書
[共通テストの配点変更、個別試験の配点を変更]

入学定員(募集人員)

※募集人員を変更

令和5年度(2023年度)入試

学科	入学定員	一般選抜		学校推薦型選抜	
		前期	後期	I	II
先進繊維・感性工学科	65	27	15	(2) 23	-
機械・ロボット学科	60	27	27	6	-
化学・材料学科	105	55	32	(1) 18	-
応用生物科学科	50	23	15	12	-
計	280	132	89	(3) 59	-

()内は職業教育を主とする(化学・材料学科においては工業に関する)学科対象で内数

令和6年度(2024年度)入試 ※増減欄は前年度比(赤字:減少、青字:増加)

学科	入学定員	一般選抜				学校推薦型選抜				
		前期	増減		後期	増減		I	増減	
			増減	増減		増減	増減		増減	増減
先進繊維・感性工学科	65	27	±0	12	-3	(2) 23	±0	3	+3	
機械・ロボット学科	60	24	-3	23	-4	10	+4	3	+3	
化学・材料学科	105	53	-2	29	-3	(1) 20	+2	3	+3	
応用生物科学科	50	23	±0	15	±0	12	±0	-	±0	
計	280	127	-5	79	-10	(3) 65	+6	9	+9	

()内は職業教育を主とする(化学・材料学科においては工業に関する)学科対象で内数

選抜日程の概要

入試区分	出願期間	選抜期日	合格発表	入学手続
学校推薦型選抜Ⅰ	令和5年11月1日(水)~11月7日(火)	11月18日(土)	12月1日(金)	12月4日(月)~12月12日(火)
学校推薦型選抜Ⅱ	令和5年12月18日(月)~12月22日(金)		2月8日(木)	2月9日(金)~2月16日(金)
前期日程	令和6年1月22日(月)~2月2日(金)	2月25日(日)	3月6日(水)	3月7日(木)~3月15日(金)
後期日程		3月12日(火)	3月20日(水)	3月21日(木)~3月27日(水)



繊維学部＝分野融合 {理・工・農・医+α}

ここでしか学べない研究教育分野です!!

未知なる世界への冒険のために

- 上(宇宙)に参ります:軌道エレベータ
- 宇宙観光旅行も快適に:スマート宇宙服
- 宇宙船の筐:宇宙船シールド材料
- 太陽風で軌道:宇宙ヨット

宇宙

食・農

みんなに安全でおいしい食を提供するために

- いつでもどこでも安全な野菜
- 先進植物工場
- 効率的な品種改良:バイオテクノロジー
- おいしく安全な食材づくり:微生物利用技術

便利で快適な生活を追及するために

- 難しい化学反応も可能に:高機能触媒
- プリンターで集積回路:有機半導体デバイス
- どんな色の光も工口発光:有機LED・薄膜ディスプレイ
- クッキリしっかり染めます:超分子染色・プリント技術
- ナノサイズで高強度化:ナノ・複合材料
- 蚕がつくる:スパイダーシルク

化学材料

エネルギー環境

持続可能な社会を築くために

- クリーンエネルギー:燃料電池・有機太陽電池
- 再生可能なエネルギー源:バイオマス
- 広がる緑:砂漠緑化技術
- いつまでも美しい地球で:環境保全・浄化システム

情報サービス

人と人が笑顔でつながるために

- 気持ちもつながる:情報検索システム
- 笑みられるディスプレイ:電子ペーパー
- つながる便利を誘発する:スマート農業/工業系:工学系:教育:金融工学

福祉医療

健康で豊かな暮らしのために

- 私にのみかなくください:介護ロボット/パワーアシストスーツ
- 介護する人も安心ください:介護支援ベッド/寝具
- いつでもどこでもケアします:ウェアラブル健康管理
- 病気もケガも心配無用:再生医療材料/予防医療材料

衣・住

一人ひとりの健康を守り、感性を活かすために

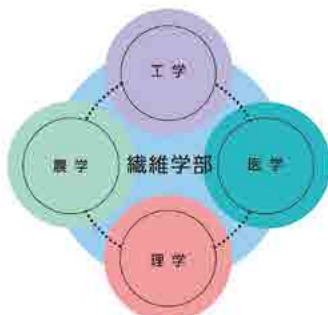
- みんな健康でカッコよく:スマート衣服/ヘルスケア衣服
- 自宅からオーダーメイド:オンデマンド衣服生産システム
- 家も呼吸します:透湿性高断熱材
- 西心地良さを科学する:空調デザイン
- 思わずスリル:好感触インテリア材料

乗り物

安全・安心・エコで快適な乗り物のために

- 燃費を大幅低減:軽量高強度ボディ
- CO₂から再生:バイオ燃料
- 電気自動車でもっと速くへ:高性能バッテリー
- 事故も慮れも激減:安全快適シート
- おまかせで安全運転:自動運転ロボット

多様性 独創性 創造性



繊維と聞いてイメージするもの。たとえば、糸、布、衣服、あとは何が思い浮かびますか。信州大学繊維学部は、わが国唯一の繊維の専門学部として1世紀にわたり繊維に関わる知恵と技術を紡ぎだし、時代のニーズに合わせて技術革新の糸口をつくりながら農業、医療、情報、環境、宇宙など、多様な領域へとつながりを広げてきました。

いまや繊維の技術は、さまざまな産業と結びつき、“新しい夢を創造するテクノロジー”へと飛躍しているのです。

日本唯一の繊維学部

当時、わが国の主要産業であった蚕糸の高等教育機関として設立され、養蚕・蚕糸の2学科から出発。つねに先進の繊維科学技術の研究に取り組むとともに、時代を担う人材の輩出に努めてきました。

学生からの話題

「JCK」と「JCTCS」の参加を振り返って

総合医理工学研究科 博士3年 張芸 21HS107D

こんにちは、最近（8月末9月初め）の学会参加の経験についてご報告させていただきます。新型コロナウイルスの制約により、国外での学会参加が長らく難しい状況が続いていましたが、この度のJCK（14th International Symposium on High-Tech Fiber Engineering for Young Researchers）（JCTCS: 5th Japan-China Textile & Composites Symposiumを含む）学会への参加は、多くの方々にとって非常に待ち望まれたものでした。私自身も中国出身ですが、長らく帰国する機会がなかったため、この機会に非常に興奮していました。

8月27日、朝早くに学校で集合し、参加者全員が成田空港に向かいました。飛行機の遅延や上海浦東空港での入国手続きなどにより、到着が遅くなりましたが、皆さんは依然として興奮を保っていました。正式な会議が始まる前に、蘇州大学のほか、複数大学からの学生や先生との夕食会が開催され、和やかな雰囲気の中で交流しました。この機会を通じて新しい友人を作ることができました。夕食会の後、日本の友達と信州大学の卒業した先輩と再会し、中国の夜市を体験しました。夜市は非常に賑やかで、多彩な美味しい料理があり、日本の友人たちは新鮮な体験を楽しんでいました。彼らには日本とは異なる生活文化を体験させることができました。

8月28日にシルク産業園にて文化見学を行いました。蚕の成長など教科書では見れない風景を自分の目で確かめました。8月29日、JCK学会が正式に始まりました。最初に先生たちの研究内容や学校の紹介が行われ、その後、学生たちが口頭発表とポ

スターセッションを行いました。皆さんは非常に真剣にプレゼンテーションを行い、この期間中に他の学校の学生や先生とも交流する機会を持ちました。JCK学会は軽快な雰囲気、学際的な交流を通じて新たな国際的な友人を作る素晴らしい場でした。JCK学会は順調に終了し、蘇州を発つ前に、私たちは蘇州シルク博物館を訪れました。私は蘇州大学の学生たちとともに、日本の学生と韓国の先生・学生とともに、蘇州の美しい景色を楽しみました。雨が降っていましたが、風光明媚で特徴的な風景を楽しむことができました。

8月31日、私たちは南通に向かい、蘇州の雰囲気は曇り雨で湿度の高い江南風情でしたが、南通では晴天に恵まれました。私は久しぶりに先生方と再会し、日本の友達と一緒に江岸公園で遊んでいると、中国の写真愛好家の方に写真を撮られました。夕暮れ時の景色は非常に感動的でした。また、南通大学内の范曾美術館を観覧し、ラボツアーも行いました。9月1日南通大学図書館の会議室にてJCTCS学会が開催されました。皆さんは一生懸命にプレゼンテーションを行い、南通大学はこの学会に対して大いに重要視しています。南通大学の学長からの挨拶や中国の他の学校の教師たちの研究内容についての発表が行われ、さまざまな学校の学生たちも自身の研究を発表しました。私も緊張と興奮の中で自分の研究内容を発表し、先生や仲間たちからの質問を通じて、自分の研究に対する新たな視点を獲得することができました。嬉しいことに、私の口頭発表は賞を受賞しました。



8.29：JCK 会議の記念写真



8.30：蘇州シルク博物館で記念撮影

一週間にわたる学会参加の旅が終了し、学术交流の機会だけでなく、新しい友達との交流が深まり、日本の友達との友情も強化されました。また、日本の友人たちに中国の美しさを発見してもらえて、とても嬉しいです。今後もこの友好関係が続くことを

願っています。

最後に、今回の学会参加に関して、信州大学知の森基金や千曲会からご支援をいただきました。感謝申し上げます。

以上、学会参加の感想をお伝えしました。



蘇州の建築



8.31 南通大学ラボツアー後の集合写真



9.1 JCTCS 記念撮影

信州大学次世代高度人材「地域発志士」育成プログラムにおける「第 4 回信州多聞塾」について

総合医理工学研究科 総合理工学専攻 ファイバー工学分野 D2 山下 拓磨

第 4 回信州多聞塾は「未来を見据えた地域課題解決」がテーマで 9 月 21 日から 23 日に開催され、学生の参加人数は 31 人であった。1 日目は、講師として、一般社団法人 未来社会推進機構の出澤俊明氏、看護師の大宮みぎわ氏、木原農園の木原翼氏からそれぞれ、「移住・定住」、「地域医療・健康」、「農業・地域リソース」の地域課題の説明を受け、グループワーク形式で解決策の考案に挑んだ。塾生全員が自身の専門と異なる課題に対し、講師の方々やグループ内外で協力しつつ、課題解決を目指し意見を出し合った。2 日目のフィールドワークでは班ごとに古

民家やブナ林、農園にて現地の状況を視察し、課題解決のヒントを探しつつ成果発表のための情報収集を行った。私自身は古民家を視察し、古民家と地域の特徴や購入、管理の費用について伺い、古民家の魅力を知るとともに、移住・定住の課題を知ることができた。

今回は塾生が寝食を共にすることで期間内に昼夜を問わず、様々な分野、研究に関する話を聞くことができ、また新しいアイデアや課題を見つけることができる素晴らしい時間であった。3 日目の成果発表では講師の方、先生方、塾生から多くの意見を

もらうことで、グループの成果物の良い点、不足している点を考えることができ、成果物のブラッシュアップとともに、次回以降の活動の参考になった。

今回の信州多聞塾は、我々が地域課題に今後どのように貢献することができるのかを身近に考えることができる良い機会になったと感じた。

「軍手イ」15年目の飛躍

カギはお祭りで地域活性「軍手イマルシェ」

ハナサカ軍手イプロジェクト2023年代表／化学・材料学科4年 油井 聖也

「軍手イ」

上田市を活性化するために生まれたこのデザイン軍手は今年15年目を迎えた。デザイン→生産→販売のプロセスを学生が行い、収益で長野県内の小学1年生に「ちび軍手イ」を配布することで今まで10万人以上の子供達に笑顔を届けてきた。

団体としての活動の型も固まり、安定している中で現状維持でいいのか、それが大きな課題であった。

2021年度に我々は軍手イ生産用プリンター買い替えに伴う活動資金集めのためにクラウドファンディングを行った。結果として2,491,000円を集めることができ、その資金で活動を継続することができている。そのなかで、上田地域の方々からのご支援も多くいただいた。そこで、我々は「ちび軍手イ以外でも地域の皆様に恩返しできることはないか。」と考えるようになった。

そのような状況で思いついたのは「主催イベントで地域を盛り上げる」ことだった。恩を大切にしながら新たな出会いを作ることで、今後の発展にも繋がる。この思いつきは正に軍手イの飛躍というトビラの「カギ」であった。出店店舗数25店舗、地域学生によるステージ発表により盛り上げという目標を軸として来場者数500人を目指し、イベントの計画を行った。上田地域での軍手イの知名度を活かしながら、今後の新たな出会いのきっかけになれば良いと思い「軍手イマルシェ」と銘打ち、賛同してくれる協賛企業、イベント出店者、ステージ演者を募った。

2023年3月19日(日)

上田城を背景に芝生の上、快晴の空の下、第一回軍手イマルシェを行うことができた。結果的にはキッチンカー4店舗を含む計22店舗の出店、ステージには幼稚園生から社会人までの8団体が出演し、狙い通り子供から大人まで幅広い年齢の方々にご来場いただいた。延べ来場者数は2080人にのぼり、出店者様、ステージ演者様にも大変なご好評をいただいた。誰が見ても成功と言えるようなイベントであったと振り返る。

今年度は、更にパワーアップした「第二回軍手イマルシェ」を開催するため準備を進めている。広告規模、出店数は昨年度の2倍を目指し、ステージ企画も実行する。この「軍手イマルシェ」の継承によって、15年分の恩返し、これからの出会いを大切に、「軍手イで心を元気に、街を華やかに」という活動モットーの達成を一つの「カギ」としていきたい。今年度は2024年3月17日(日)上田城やぐら下芝生広場で開催予定である。この文章をお読みの千曲会員の方にもご来場いただくと幸いです。

さて、私達の活動は活動支援金の寄付(ご協賛)や軍手イを販売にご協力いただくこと(販売協力店



舗)で多くの部分が成り立っています。私達の活動にご興味を持っていただけた方はメール(guntie@hotmail.co.jp)やSNS(X: @hanasaka_guntie Insta: guntie_official facebook: 軍手ィ(guntie))にご連絡ください。どんな形であれご支援をいただけますと幸いです。また、応援コメント等をSNSの投稿返信機能やいいねをいただけますと活動の励みになります。遠方の方にもご購入いただけるようにオンラインショップBASEに出品中です(<https://guntie.base.shop/>)。軍手ィのご購入をご希望の方はこちらからご購入ください。多数のご購入希望についてはメールにてご対応いたします。

最後になりますが、日頃のご理解・ご協力に心から感謝申し上げます。これからも誠心誠意活動していく所存ですので、見守っていただけると幸甚です。今後ともよろしく願いいたします。

団体紹介

「ハナサカ軍手ィプロジェクト」は信州大学繊維学部の学生で構成された団体であり、カラフルな軍手に学生考案のデザインを印刷した「軍手ィ」を製作・販売している。子供達に笑顔を届けるために「軍手ィ」の収益で小さな軍手「ちび軍手ィ」を製作し、長野県内の小学1年生に寄贈する活動をしている。15年間続いた活動で計10万人以上の小学1年生の手に「ちび軍手ィ」を届けてきた。現在40人以上のメンバーが在籍し、毎週月曜日に今後の予定や事業を考案している。営業、商品、広報の3部門に分かれそれぞれの特徴ある活動を行い、毎年軍手ィの新しい柄を考案するなど、軍手ィを中心とした様々な活動をしている。

信州大学基礎スキー部の活動について

繊維学部 先進繊維・感性工学科4年 梅沢 弘

信州大学基礎スキー部は、全国岩岳学生スキー大会での男女総合優勝を目標に、全学部1から4年まで現在計86名で活動しています。夏季はインラインスケートや陸上トレーニングを実施し、冬季はスキー場での雪上練習で技術向上を目指しています。信州は自然に囲まれ、スキー場も数多く、ウィンタースポーツを楽しむには最高の地です。私は長野県の出身ですが、部員のほとんどは県外出身であり、北は北海道、南は沖縄まで日本全国から集まっています。経験者、初心者問わず入部でき、中には今まで



雪を見たことがなかった人もいます。大自然の中でスキーを楽しむという共通点で様々な人が集まり、切磋琢磨し互いにスキーの技術を向上できるのが信州大学基礎スキー部の特徴です。ここで基礎



スキーについて紹介します。基礎スキーとは、設定された競技種目の中で、どれだけ技術があり、質の高いターンを行ったか、いかに上手に美しく滑ったかを審判員が採点し、順位を決定する競技です。簡単に言うと、スケートにおけるフィギュアスケート

TOKYU COMFORT
変わらぬ心で、新たなやすらぎ



上田 東急REIホテル

ご予約・お問い合わせは…

☎0268-24-0109

<http://www.ueda.rei.tokyuhotels.co.jp>

のような競技です。

基礎スキーには、白馬の岩岳スキー場で毎年行われる、学生の間で「岩岳」と呼ばれるインカレのような大会があり、この大会が我々の目標としている全国学生岩岳スキー大会です。50回目の開催であった前回大会(2022-2023シーズン)では、総エントリー数が1200人を超え、84のクラブが全国から集まりました。この大会で信州大学基礎スキー部は男子クラブ総合優勝4連覇目を達成し、団体戦では計44チーム中、信州大学基礎スキー部Aチームが優勝しました。信州大学基礎スキー部の良いところは上手だからえらいという雰囲気がなく、互いが対等な関係性を築けていることだと思います。当たり前の

ようで大変なことであり、だからこそその優勝だったのではないかと考えています。592人がエントリーした男子個人戦では私が優勝し、信州大学からは3人目の優勝となります。全国学生スキーヤーのトップであり、1年のころからあこがれ続けた座であったため、夢のような感覚でした。

私個人として昨年3月頭に行われた全日本スキー技術選手権大会に出場し、35位という成績を得たこともあり、技術面において指導者として信州大学基礎スキー部をより強くできるよう、またサークル全体として全国一という誇りを持ち、より高みを目指して精進してまいります。応援よろしく願いいたします。

東雲祭 開催報告

令和5年度東雲祭実行委員長 化学材料学科3年 降旗 知哉

令和5年10月14日、15日に繊維学部の学祭である“東雲祭”が開催されました。

心配されていた台風も今年度はその気配を見せず、6年ぶりの開催となる東雲祭の新たな門出を祝うような秋晴れの元開催された東雲祭は、野外ステージに模擬店、スポーツ大会とさまざまな企画で盛り沢山の内容でした。二日間での来場者数は推定1,000人超。たくさんの方が東雲祭を楽しんでくれました。

模擬店では、普段の大学生活では聞いたことのないような学生たちの弾けるような声をBGMに、一般の方も高校生も、他大学の学生も、老若男女問わず笑顔を浮かべて店舗を回る様子が特に印象的でした。

ステージ発表では、バンド演奏やダンス、ジャズ演奏にジャグリング、演劇と学生たちが勉学の合間を縫って創り上げた最高のパフォーマンスが目白押しでした。1日目の一般公開後のバンド演奏のパ

フォーマンスで、学生たちがステージ前に大勢集まり、一体となって体を揺らす姿を見た時、繊維学部の学生の底知れぬパワーをひしひしと感じたことを昨日のことにように思い出します。

体育館で行われたスポーツ大会は、1日目はドッチボール。2日目はバスケットボールとフットサルが行われました。私は、その盛り上がりように呆気に取られました。少し肌寒くなってきた外の気温の何倍の温度なのだというほどの熱気に溢れた体育館は、歓声や掛け声が飛び交い、外で行われている模擬店やステージ発表がそれ以上の盛り上がりでした。きっと初対面のチーム同士の戦いが何回もあったとは思いますが、互いに敬意を払いながらも本気の表情でぶつかり合う姿が印象的でした。

コロナ禍で失われたり、希薄になってしまった人との繋がりを改めて感じる機会を作りたい。という思いで準備を進めてきた東雲祭は、その目的を大い



中夜祭野外ステージの様子



後夜祭での集合写真

に達成できたと思います。模擬店の準備や販売の場面では、学生同士が協力し独創的な商品を創り上げ、どの店舗も赤字を出すことのない販売実績となりました。スポーツ大会では、チームのメンバーとはもちろん、対戦相手とも和気藹々としながら会場一体となって盛り上がりを見せていました。ステージでは、パフォーマーの呼びかけに対して大きな拍手や歓声が飛び交っていました。

このように、何人もの学生や、来場者の方々がいたから完成された東雲祭は、まさに人と人の繋がりによって創り上げられたものであり、人と人の繋がりを感じる機会になったと私は思います。

私が東雲祭をやってよかったと思ったことの中で一つ、私の友人 A くんが話してくれたことを取り上げたいと思います。

A くんは今年から学部4年となり研究室に配属されたばかりの時から「なかなか研究室に馴染めない」、「学校に行くのが辛くなってきた」と、何度も私に相談をしてきていました。忙しい研究の日々の中では、研究室の先輩方と砕けた会話をするような機会があまりなく、なかなか距離を詰めていきづらいような雰囲気があったそうです。そんな中、東雲祭が開催されました。A くんは研究室は模擬店出

店を行い、A くんも売り子として参加していました。普段見ない A くんの様子を見て、私は少し心配でしたが、東雲祭の1日目が開催された後、彼から「東雲祭のおかげで、先輩や研究室の人と馴染めている」、「学校に行きやすくなりそうだ」と連絡がありました。この連絡が来た時私は「このために学祭を開いたんだ」と思い、強く感動したことを覚えています。人と人を繋ぐことができたのだとそう思えました。

開催までは、非常に険しい道のりの連続でした。その度に、たくさんの方の助言や、ご協力、ご支援によりなんとか乗り越えることができ、開催中も本当にたくさんの方のご協力のおかげで、運営を行うことができました。これまで支えてくださいました関係者の皆様、本当にありがとうございました。感謝をしてもしきれません。

この令和5年度に東雲祭は新たな一步を踏み出しました。これから東雲祭がどのような学祭になっていくのか、私でも想像ができませんが、必ず素晴らしい学祭として発展していくと思います。

これからも、東雲祭並びに東雲祭実行委員会を温かい目で見守っていただけたら幸いです。

2024年度の東雲祭もお楽しみに!!

サークル紹介

演劇サークル「六連銭」

化学材料学科4年 宮下 愛美

私達劇団六連銭は、信州大学繊維学部の学生で構成されている演劇サークルです。1981年に旗揚げされて以降40年以上、上田で活動を続けています。現在は5人のメンバーで1年に1回程度公演を行っており、本年度は東雲祭が数年ぶりに復活することもあり、東雲祭の開催に合わせて東雲祭公演を行いました。

本年度上演させていただいたのは、「まな板のコイに歌え」という作品で、創作台本になります。この作品は、巨大な虫やら毒花やら人の形をした生き物やらを当たり前のように食す裏社会で生きる料理人の少年と人魚との掛け合いを描いた物語となっています。過去公演では類を見ない、歌唱シーンを取り入れた幻想的な作品に仕上げました。当劇団の

YouTubeで公開しているので、ぜひ様子だけでも覗いてくださると幸いです。

具体的な活動内容としては、まず参加できるメンバーを確認し、次に、人数に合った脚本を創作あるいは選定します。そして役者のオーディションをして配役決定の後、稽古を始めます。稽古は、まず台本の読み練習です。ここで、役のキャラ像を掴み演



場所：旧千曲会館2階

出家が想定する役や劇全体での自分の役の立ち位置を把握し、同時平行で台詞を暗記します。その後、立ち練習すなわち実際に舞台上で動く想定をする練習に入ります。そして、本番近くになると、照明や音響、舞台装置、衣装など全てを伴った“ゲネ”と呼ばれるリハーサルを行い、当日の上演を迎えます。

コロナウイルスの影響で、コロナ禍以降、大学に入ってサークルに入る学生が大きく減少したように感じます。当劇団は、各キャンパスに1つずつ存在する演劇サークルの姉妹劇団となっていますが、姉妹劇団全体で見てもその影響が如実に出ています。さらに、演劇という芸術活動の特性上、どうしても理系学生のみで構成されている上田キャンパスではなかなか演劇の世界に足を踏み入れてきてくれる学生が少ない状況となっています。

そんな中、少数精鋭で活動を行うというのはなかなか大変な状況です。演劇というのは、もちろん役者がいればそれだけで成り立ちます。しかし裏方として、演出家はもちろん、照明、音響、大道具（舞台装置制作）、小道具、衣装といった舞台を彩るための縁の下の力持ちが必要になってきます。これらを全て数人で行う。しかも学業と平行しながらです。東雲祭公演ではその大変さが本当に身に染みしました。手を差し伸べてくださった方には本当に感謝の気持ちが一杯で頭が上がりません。

それでも夢中に取り組む人間が毎年一定数いるのは、やはり演劇がもつ魅力に取り憑かれているからでしょう。見る人も作る人も魅了する演劇というのは不思議な魅力をもつ芸術活動であると断言できます。我々作り手は、何に惹かれて演劇の世界に身を染めるのでしょうか。舞台上がって照明を浴びたときの高揚感、時間をかけて作り上げたものが形になる瞬間を目にしたときの達成感、内に秘めていた想いを表現できたときの開放感。挙げていくとキリがありません。劇団員達は様々な理由で入団してきます。劇団員の一人は、メンバー全員で舞台を作り

上げていく、文化祭準備のような雰囲気が好きで入団を決めたそうです。また、ある劇団員は、ミュージカルが好きで、もともと合唱サークルに所属していたものの、お芝居に身を投じたくなって入団を決めたそうです。かくいう私も、最も演劇に取り憑かれている人間といえるでしょう。私は、高校時代から演劇に関わっていましたが、大学では続けなかつたのに、気がついたら入団を決めていたのですから。私が演劇を、特に役者をやるのが好きな理由は、“演劇を通して他人の人生を生きることができるから”です。誰しもが思ったことのある、もし自分があの人だったら、という願望を擬似的に叶えることができるような気がします。他人の目を通すことで、周囲の見え方がちょっと変わったように感じる瞬間があります。しかし、大学に進学して当サークルに入って、また、演劇への見え方が変わりました。もちろん高校演劇と大人の演劇の性質が違うこともそうですが、一番影響が大きかったのが、演出家を経験したことです。一役者ではなく、舞台全体をコントロールする演出というのがまあ面白いこと。今まで役の視界でしか物語を見ることができなかったのが、作品全体を俯瞰して見る経験を得たことで、役者とはまた違う表現の面白さに出会うことができました。

このように、演劇というのは噛めば噛むほど味が出る、非常に奥深い芸術活動であると言えます。そんな演劇に大学に入っても、なお身を投げられるというのは本当に喜ばしいことです。こちらの記事をご覧になっている方の中で、見る側、作る側どちらにしても演劇に興味を持って下さる方がいらっしゃったのであればこれ以上に光栄なことはありません。

私的な宣伝ではありますが、3月の中旬の土日に姉妹劇団合同で卒業生のみで行う卒業公演を、松本で上演いたします。もしご都合がつく方でご興味を持って下さったのであれば、三才山を越えてご来場いただきますと大変役者冥利に尽きます。

ラクロス部

先進繊維・感性工学科3年 佐野 緑
化学・材料学科2年 岩附 麗奈

信州大学女子ラクロス部は部員27名（繊維学部3名）で週3回（水・土・日）の全体練習と地区の朝練を中心に日々活動しています。顧問が不在のことからすべての役割を部員で分担し、上級生幹部を

中心としてチーム運営を行っております。地区移動があり休日練習を行っているため、学生としては非常に忙しい毎日ですが充実した生活を送っております。信州大学は東海地区に属しており、今シーズンは2部から1部への昇格を目標として練習に励んできました。2部全8チームで総当たり戦を行い、1位の自動昇格、2位3位の入れ替え戦への参加権を賭けた試合が行われました。3ヵ月で8試合、度重なる東海遠征とハードスケジュールのなかではあり



ましたが無事にシーズンを終えることができました。ここで2023年夏のリーグ戦（東海地区二部）の大会結果を報告させていただきます。

～2023年東海リーグ戦～

チーム結果

- vs 名古屋外国語大学・日本福祉大学 14-2 WIN
- vs 中部大学 13-5 WIN
- vs 愛知淑徳大学 1-8 LOSE
- vs 愛知大学 2-3 LOSE
- vs 至学館大学・椋山女学園大学 11-3 WIN
- vs 愛知学院大学 19-0 WIN
- vs 名城大学 25-0 WIN
- vs 岐阜大学 5-9 LOSE（入れ替え戦）

結果は2部3位、勝てば一部昇格となる入れ替え戦に持ち込むことはできたものの一部のチームに勝つことはできずに2部残留となりました。二部での存在感を見せることはできましたが、一部昇格には届かず、来年は一部リーグで戦うことを目標としていた私たちにとって非常に悔しい結果となりました。11月より新チームが発足し、基礎技術・体力向上のための練習が始まりました。来年はリーグ戦経験者が多く残ります。24ラクロスでは一人一人が輝く信州「ひかれ」をスローガンとして一同練習に励んでまいります。一部昇格のみならず、1部に勝てるチームとなることを目標として頑張っていきますので見守っていただけると嬉しいです。

私たち信州大学男子ラクロス部は総部員35名（繊維学部8名）で週3回（水・土・日）の全体練習と地区練習を重ね、日々高みを目指しています。女子ラクロス部と同じように指導者が確立されていないため上級幹部を軸としチーム運営を行い、学生主体



のラクロス協会の一員を担っています。私たち繊維学部部員も松本市のグラウンドで全体練習があるため、地区移動による練習時間の制限があります。けれど、より質の高い時間にすべく忙しくも熱量を持って練習に励んでいます。昨シーズンは他大学との異なりを見せる2、3年生だけで構成された若いラクロスチームでした。だからこそ対戦相手・上級生相手から、何事も貪欲に吸収し、一部昇格を目標にスローガンを「hungry」と掲げ日々邁進して参りました。以下に、hungry精神で熱闘した2023年夏のリーグ戦（東海地区二部）の大会結果を報告させていただきます。

～2023年東海リーグ戦～

チーム結果

- vs 愛知大学 2-1 WIN
- vs 滋賀大学 13-0 WIN
- vs 中部大学 4-1 WIN（一部昇格）
- vs 愛知教育大学 2-5 LOSE（Wild Card）

個人結果

- 〈得点王〉
 - #0 西野一心（繊維学部3年）
- 〈セーブ王〉
 - #1 北村尚暉（繊維学部3年）
- 〈フェイス王〉
 - #31 大西健斗（工学部3年）
- 〈ベストプレイヤー賞〉
 - #0 西野一心（繊維学部3年）
 - #1 北村尚暉（繊維学部3年）
 - #21 内木朝陽（繊維学部3年）
 - #31 大西健斗（工学部3年）
 - #32 吉良翔太（繊維学部3年）

このように二部内での全勝から一部昇格を達成し、

一部四位の大学と試合をするワイルドカードの権利を取得することができました。愛教戦ではファイナル4を掴むべく、勝利を目指しましたが残念ながら敗れてしまいました。わたくし1マネージャーとしても非常に悔しい結果です。しかし、信州大学のプレイヤーが数多くの個人賞を受賞し、大変輝かしい成績を収めることができました。

そして、今年度11月から始動した24世代の信大男子ラクロス部は、全国レベルの強豪校がいる東海地区一部で戦うこととなります。ここ長野県はラクロス的には過疎地域であるため、容易に練習試合を交えることはできませんが、個々に磨きをかけ、チーム力を向上し、より一層高みを目指します。厳しい寒さに負けず日々練習に励み、信州大学男子ラクロス部の魅力を開花させていくので、ぜひ見届けていただけたら幸いです。

最後に、私たちがラクロスのできる環境を作ってく

ださる多くの方々に感謝申し上げます。ご支援ご声援を賜わり誠にありがとうございます。これからも応援よろしく申し上げます！

ラクロスは10人のプレイヤーがボールをクロスと呼ばれるスティックで奪い合い、相手のゴールにシュートを決めた得点数で競うスポーツです。2028年のロサンゼルス五輪では120年ぶりに正式競技として復活することが決まるなど盛り上がりを見せていますが日本ではまだまだ認知度が低いスポーツです。これを機会にラクロスという競技に興味を持っていただけると嬉しいです。男女ともに目標に向かって日々精進してまいりますので応援の程よろしく申し上げます。

女子ラクロス部 Instagram: @shinshu_lax

男子ラクロス部 Instagram: @shinsuh_mlax



学生の学会賞受賞

■ 2023年 繊維学会 年次大会で優秀口頭発表賞（1名）と優秀ポスター発表賞（2名）を受賞

総合理工学専攻 博士課程1年の千葉 耀太さんは、「ケミカルリサイクル可能なポリ（スチレン誘導体）の開発－高速分解と物性制御を実現するモノマー設計－」で優秀口頭発表賞を受賞し、繊維学専攻 修士課程1年の間 美羽さんは、「再生ポリプロピレン（PP）／バージンPP系ブレンド繊維の熱物性」で、同1年の竹内 真凜さんは、「アゾベンゼン骨格を主鎖に有するポリウレタンの合成と物性」で、それぞれ優秀ポスター発表賞を受賞しました。



千葉 耀太さん



間 美羽さん



竹内 真凜さん

■ 日本繊維製品消費科学会 2023年 年次大会で若手優秀発表賞とポスターベスト発表賞を受賞

繊維学専攻 修士課程1年の諸岡 駿さんは、「生地の水分移動特性が着心地に与える影響」で若手優秀発表賞を、同1年の長田 航太さんは、「高視認性安全服用蛍光染色布の誘目性評価における背景色彩の影響」で、ポスターベスト発表賞をそれぞれ受賞しました。



諸岡 駿 さん



長田 航太 さん



前田 環 さん

■第 187 回 高分子学会東海支部 東海高分子研究会でポスター賞を受賞

繊維学専攻 修士課程 2 年の前田 環さんは、「ゲル中のゼラチンネットワークの構造制御により発現する選択的透過性の解析」で、ポスター賞を受賞しました。

■ 7th International Conference on Advanced Capacitors 2023 で Student Poster Award を受賞

繊維学専攻 修士課程 1 年の杉山 貴矢さんは、「Preparation of pseudo-solid-state water-in-salt electrolyte confined in a silica matrix by sol-gel reaction」で、Student Poster Award を受賞しました。



杉山 貴矢 さん

■第 29 回 国際バイオメカニクス学会でポスター賞を受賞

繊維学専攻 修士課程 2 年の中村 百花さんは、「The intrinsic foot muscles contribute to controlling postural sway during single-leg stance」でポスター賞を受賞しました。



中村 百花 さん

■第 52 回 繊維学会 夏季セミナーで優秀発表賞を受賞

繊維学専攻 修士課程 1 年の間美羽さんは、「リサイクル PP 繊維の強度に関する研究」で、優秀発表賞を受賞しました。



間 美羽 さん

会 員 か ら の 話 題

ヒトの美と健康を考える(9)

第七の栄養素としての「フィトケミカル」と老化

博士(生物産業学) / 東京農大客員教授 / 健康管理一級指導員 / (株)シンビケン CEO

宮下 忠芳 (学農 12)

日本は長寿社会になりました。昭和 25 年は男性 58 歳、女性 61.5 歳、平成 28 年によく男女 80 歳代になりました。令和 4 年の統計によると日本人人口の約 1 億 2 千万人の内、平均寿命は男性 81.56 歳、女性 87.71 歳となりました。65 歳人口が占める割合は約 29% です。後 10 年後には日本人の人口は 1 億人を割ります。47 年後には平均寿命は男性 84.95 歳、女性 91.35 歳と推定されます。ちなみに現在は香港が世界中で No.1 の長寿国で日本が No.2 の長寿国です。

長寿の原因は、医療の発達、衛生状況の改善など色々言われていますが、一番の要因は食生活の変化、食事、栄養のバランスに対する社会、自己管理意識の向上に有ると思います。

幸せな事に食事の食材、料理の種類が豊富で色々なメニューが選択できることに有ります。食卓やレ

ストランのメニューの多さ、贅沢に美味しいものを食べるレストラン、豊富なメニューから自由に食べるものを選択できる「食のセレブ国」になりました。半面、世界人口の中でアフリカや後進国の約 8 億人は栄養不足、飢餓に苦しみ、つまり 9 人に 1 人は栄養不足です。それらの環境下の人間の平均寿命は短いと言えます。

食の力を示す言葉として「医食同源」は皆良く知られています。中国の教えですが「日常の食事こそが良薬である」という考え方によります。食物は本来「人に良い」物という漢字で解るように食物は生薬(漢方の原料)と同じ土壌を介して自然の中で育つ仲間であるという事です。

我々の主食は、動物からの肉や卵、乳製品類と植物からの果実、菜根などですが、特に日本人は古代

から野菜、穀物類が主力の食生活でした。長野県は長寿県です。その原因には野菜の摂取量が日本一にある様です。もちろん今多くの人は食生活に野菜類の他に肉類、魚、乳製品などをバランスよく沢山食べる食のセレブ国ですが、欧米の食生活に見られる肉類の摂取量が多い傾向になってきました。その結果、肥満や様々な生活習慣病が増えてきたのは事実です。そこで最近見直されてきた「食養性」に触れてみたいと思います。江戸時代中期の長崎藩主に仕えた貝原益軒の「養生訓」も「食養」を中心に書かれています。食養の中で今回は植物からの食養性に関する第七の栄養素と言われるフィトケミカルについて科学的に考えてみたいと思います(栄養素とは炭水化物、蛋白質、脂質、ミネラル、ビタミンが5大栄養素と呼ばれます)。

フィトケミカル (phyto-chemical) は別名ファイトケミカルとも呼ばれ植物本来に由来する化学物質を意味します。その数は数千種に上ると言われます。今日わかっている数はほんの僅かですが、植物の持っている本来の色素(赤色のトマト、緑のホウレンソウなど)や苦味、甘味、酸味など、またその植物がもつ固有の香り、これらの化学的成分は、植物が紫外線や昆虫など、植物にとって有害なものから体を守るために作りだされた色素や香り、辛味、ネバネバなどの成分のことで

人間にとってもこれらの成分は抗酸化作用、抗がん作用、免疫力アップなど我々の体の機能を高める働きが有る事が判ってきて、第七の栄養素と言われます。フィトケミカルが注目されてきたのは約40年前アメリカで日本人の様に野菜を多く摂取すると、がんの予防になるという調査結果が発表されて、野菜に含まれる化学物質の研究に脚光を浴びるようになり今や非常に研究が盛んに行われています。

最近の消費者は口に入れるものに化学物質という言葉は神経質になっていて漠然とした天然由来成分の表示に盲目的に受け入れる様に見られますが、理科系の諸君は理解できますがフィトケミカルは天然成分の中で構造式が解っている天然成分です。従って、あとで説明を加えますがフィトケミカルはその構造式の特徴から複数の種類に分けられます決して石油化学系などのファインケミカルではありません。

1. ポリフェノール (フラボノイド系)

フィトケミカルの代表と言われるのがポリフェノールです。一般に抗酸化力が強く赤ワインやブルーベリーなどに含まれるアントシアニン、お茶

などに含まれるカテキン類、コーヒーに含まれるクロロゲン酸などがポリフェノールの仲間、ヒトの体内で強い抗酸化力を持つことが知られています。

2. カロテノイド

一般に水に溶けやすい性質を持つポリフェノールに対し、中には脂溶性の性質を持っているフィトケミカルがこのカロテノイド系に含まれます。カロテノイドには、ニンジンやカボチャなどに含まれるβ-カロテンの他に、トマトに多く含まれるリコピンやホウレンソウやブロッコリーに含まれるルテインなどがあります。ポリフェノールと同様に、抗酸化力が高いです。これらの成分を持つ植物は油に溶かして食べるのが吸収を高めて効果的です。

3. 含硫化合物

このフィトケミカルの注目する機能はダイコンやワサビに含まれるイソチオシアネートや玉ネギ、キャベツに含まれるシステインスルホキシドです。これらの化合物は、硫黄を含んでおり、辛みと強い刺激臭が特徴です。これらのフィトケミカルは、抗酸化作用も持っていますが、血行や血流の促進、血圧降下、強い抗菌作用、肝臓や消化管の解毒酵素の活性化などの効果があります

4. テルペン類

香りや苦み成分をもつこのフィトケミカルは多くのテルペン化合物です。森林を散歩すると漂うリモネンは脳のα-波長でリラックスできるフィトンチット成分と言われます。天然香料の香りはこのテルペン化合物が主体です。食べ物ではレモン等に含まれるリモネン、清涼感が出るメントールなどがあります。

5. 多糖類

多糖類はその名の通りグルコースやマンノースなどの単糖類が長くつながったものの総称ですが、

思い出づくりは

一冊の本から。

写真集・画集・句集・書作集・自叙伝等の
自費出版の事なら何でもお気軽に
ご相談ください。



田口印刷株式会社

長野県上田市殿城425-1 〒386-0004

TEL (0268) 22-0680 FAX (0268) 24-7757

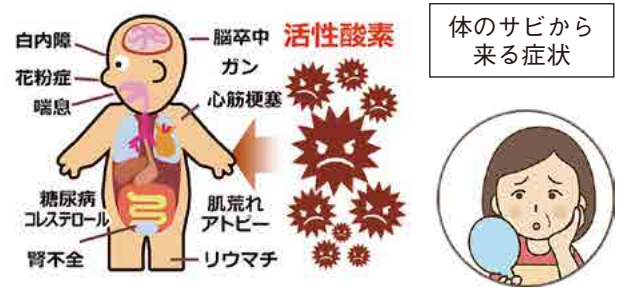
E-mail: info@taguchi1912.com

その種類は多義にわたり、穀物、イモ、砂糖、甘味料、豆類、にフィトケミカルが存在しますが、代表的な食物繊維の一種であるβ-グルカンキノコ類に、また血糖値を下げると言われるイヌリンはゴボウ、玉ねぎ、菊芋などに含まれます。

フィトケミカルの人での重要な働きがある中で特に抗酸化力の功罪を考えてみましょう。ヒトは生きる中で酸素は不可欠なものですが、酸素はご存じの通り様々な物質と結びつくことで「酸化」反応を起こします。我々の体の中でエネルギーの重要な酸素の働きの中で、約5%の酸素が暴走をして活性酸素となり、体内で過酸化物質に変化して体を「サビ」させます。活性酸素はスーパーオキシドイオン、ヒドロキシラジカル、過酸化水素、一重項酸素の4種類がありますが、特にヒドロキシラジカルは過酸化物質として毒性の強いものです。過酸化物質に変化しやすい代表的な食べ物は沢山ありますが、特に油

類では多価不飽和脂肪酸(Ω6, Ω3)は酸化されやすいです。半面オリーブは一価不飽和脂肪酸(Ω9)で酸化されにくいのです。抗酸化のしくみ、老化を起こす恐ろしさは次回でも報告しましょう。

結果として体のサビ 過酸化物質が出来るとがん、糖尿病、しみ、皮膚のくすみなど鉄骨の腐食の様に体が蝕まれていくのでまず多種多様な植物、野菜類を多くとりましょう。



弁理士の魅力 (2)

弁理士 池内 寛幸 (学化18)

歴史と特許紛争

私の事務所の窓からは大阪城天守閣が良く見える。大阪城は豊臣秀吉の居城であったが、大阪冬の陣(1614年)、大阪夏の陣(1615年)で真田幸村が六文銭の旗を挙げて参戦し、徳川方と戦って敗れた場所である。その前の関ヶ原の合戦(1600年)で信州上田城主の真田昌幸・幸村父子は上田城に籠り、西方へ出兵する関東の徳川軍約4万人を迎え撃ち、追い返した。

私の母校上田高校の校歌は「関八州の精鋭をここにくじきし英雄の 義心(こころ)のあとは今もなお 松尾が丘の花と咲く」と、当時の真田軍を歌っている。上田高校は上田城の外堀の内側の家老屋敷の跡地にある。



もう400年以上も前のことではあるが、自分の仕事と重ね合わせると感慨深いものがある。特許紛争も400年前の戦いに共通する点がある。

特許紛争はなぜ起こるか

特許法の原理は、特許権を独占権として保護する。これにより、他社の参入を防ぎ、安売り競争を防止し、特許権者の利益を守ることである。競争会社がこれに対抗するには、別の技術を開発する必要があり、こうして技術開発競争が起こり、技術は進歩する。その結果、国内産業は発展し、国民は経済的に豊かになり、国家としても発展する。これが民主主義体制の最も優れた制度である。

ところが、特許権の存在を知らない、無視する、あるいは強力な基本特許の場合は別の技術を開発ができない、権利範囲をすれすれに外して実施する、無効理由を探して特許権は無効だと主張するなどの場合がある。このような場合、特許権侵害といえるのか、あるいは無効なのかどうかで当事者間で紛争が起こる。

特許紛争はどのように発展するか

通常は特許権者から無断実施会社に対して警告書が送られ、これに対して相手方は反論する。分かりましたと言って事業をやめるとかライセンス料を払う場合は紛争にならない。特許発明は文章で記載し

てはいるが、土地や建物と違い無体物であり、特許権者は広く解釈し、相手方は狭く解釈するのが通常であるから、しばしば紛争になる。

そこで、裁判になるケースが多い。裁判では当事者双方が主張と証拠を提出し、戦いが始まる。争いは一筋縄ではなく、あの手この手、様々な論争となる。

特許権者にとって有力な戦い方とするには、特許明細書をしっかり作成しておくことである。例えばお城のように外堀、中堀、内堀と限定できるように記載しておき、本丸の天守閣だけは守れるようにしておく。まさに400年前の戦いと同じである。

特許紛争の終結はどのようになるか

特許訴訟は1審の東京地裁又は大阪地裁で通常1年半～2年、2審の知財高裁では通常1年で終結する。最高裁は実質上審理しないから、知財高裁が最終審となる。

訴訟が進行し、特許権者が勝ちの場合は、裁判官の心証が出された後、損害論となり、損害額が明らかになると、判決となるか、その前に職権和解勧告が出される場合がある。特許訴訟は差し止めを求めることが多く、判決を出すとさらに上訴していつまでも争いが続くので、和解させて紛争を早期解決することも必要である。

戦争においても敗者は損害賠償を求められることが多いが、和解により早期紛争解決も重要である。

弁理士の役割

特許訴訟はやってみなければわからないという困

難性があり、負けるリスクもある。高額な費用も掛かるから、企業はできるだけ特許訴訟にならないように日ごろから努力している。

対策としては、他社より先に特許出願する、他社の問題特許は無いか常に調査し、問題がある場合は特許庁に情報提供（無記名でできる）、あるいは異議申立（匿名でできる）などにより特許権の成立を阻止する、あるいは発明の範囲を限定させることも有力である。

弁理士は発明の発掘から特許出願、権利化、障害となる特許をつぶす、コピー製品が市場に現れたら権利行使する、企業と様々な問題につき戦略を検討することなど、攻撃防御全体を担当する。技術と法律を駆使した戦いは弁理士の専門とするところである。私は日々この戦いの中で暮らしている。



写真は欧州アルプス、モンブラン(4,808m)登頂後の筆者(2010.8)

老顧問のつぶやき ー第84回千曲会定期総会に出席してー

千曲会顧問 中沢 賢 (学紡8)

去る5月27日、繊維学部構内の繊維学部総合研究棟において、第84回千曲会定期総会が行われ、顧問として招待を頂き出席致しました。

コロナ禍のため、4年ぶりの会合でしたが、千曲会の運営に斬新な変革が随所に見られ、感動いたしました。関係各位の努力に感謝いたすとともに、この変革の様子を全国の皆さんにも知って欲しく、あえて思い出すまに会の印象を書かせて頂きました。

理事長挨拶

総会冒頭、夏日理事長の挨拶で、従来の会運営に関わる「本会・支会」活動に加え、新しい同好の者が集まり自発的な活動をする会「グループ千曲会」と女性の組織「女子会」の構想と現状について説明があった。「グループ千曲会」は同級会や同好会の

ようなお互いの親睦や趣味のための自発的な任意集合のことで、結果として会員同士の絆の深まりを期待、奨励している制度と理解し、理事会の着眼の素晴らしさに敬服した。無関心会員に目を覚まして頂き、何らかの意味で千曲会に親近感を持って頂くためにも、この種活動が盛んになることを期待したい。女子会には未踏の領域が広がっている。今後どのような展開や活動が見られるか楽しみである。

新顧問に期待

総会会場に入り顧問席に着くと、見慣れない方々がおられる。従来、顧問は理事、役員を引退した方が任命され、総会に儀礼的にお招き頂いていた観がありました。ところが今回の新規メンバーには実社会でご活躍の企業の方が任命されていることを知

りました。卒業生で各界で活躍の方々には、それぞれの信念と識見により、千曲会に対し、さらに千曲会を通して母校に対し、積極的に発言を頂き、いろいろな形で応援して頂きたい、そんな理事会の意図を感じました。

会が始まる前、顧問席隣の榎谷徹氏と雑談した。氏とは初対面であったが帝国繊維株式会社(「帝織」)社長とお聞きして、急に親しみを感じた。と言うのは、今から 60 年余の昔、同じ研究室の畏友柳沢清充君が麻専門の会社、通称「帝織」に就職し、繊維不況の中、頑張っている話をよく聞いたのを思い出したからです。今その会社がユニークな麻技術を発展させ消防ホースから防災車両、高級リネン製品の製造販売にまで見事に事業展開されていることを聞いて嬉しくなりました。是非そうした方の経営理念や方針を学生にも聞かせてやりたいと思いました。

同じ席に株式会社八光の会長丸山勝さんがいた。彼は繊維機械学科の教え子で、同級会の折などに地域に根差した活躍を聞いている。

今回は欠席であったが、新顧問となった金井重要工業の社長金井宏彰さんは、私の助教授時代の学生で、後に社会人ドクターコースに入学、焼結リングの研究で工学博士の学位を取得している。多分会社の仕事で多忙を極めていると思うが、千曲会と繊維学部知恵と力を貸して頂きたい、と思いました。

本会の後、石坂専務理事にお聞きすると、繊維学部では既に数年前より河村理事の試行に始まり、学部の正規の授業科目の中で、先輩企業人を講師として、経験と考えを聴講できるようになり、まずは現

理事が交代で講師となっているとのこと、その先見に感心しました。

大学院生の業務参加

会の開始前、若者が、何人か甲斐甲斐しく動いている様を見て、不思議に思って尋ねると、3月に選出された「大学院代議員」と言う。千曲会報、IT関係構築と業務、ホームカミングデー等の委員会メンバーとなり活動しているとのことで、些少ではあるが勉学援助のため手当も出していると聞いた。学生の千曲会への積極的参加は会の重要課題の一つである。素晴らし新制度の今後に期待したい。

懇親会

夏目理事長が挨拶の中で「コロナ禍に続く不況で、学生の勉学にも支障が出てきていると聞く。学生諸君、どうしても困る時があったら、是非千曲会を頼って飛び込んで来て欲しい」との趣旨のことを言われた。その心意気に感動し、強く印象に残った。何かあれば耳を傾け相談に乗る。千曲会はそのくらい篤い思いで後輩学生諸君を思い応援していることを学生諸君には知って欲しい。同時に全国の会員の皆さんにも会費納入等いろいろの形でご協力を頂きたいとしみじみ思いました。

挨拶の後、賑やかな懐旧の交歓会となった。ゲストのハーモニカ演奏者(高3)と小井土理事の尺八のセッションあり、石坂事務局長のシナリオで漫才もありで盛り上がった。遠来・地元の出席者に対し、今後とも会のためによるしくの願いを込めた、理事会役員一同のおもてなしの気持ちが伝わってくる宴会でした。

ホームカミングデーに参加して

藤原 恵 (織工課 3)

卒業してからもうすぐ 10 年。化材の友人が誘ってくれたのを機に、節目の年に初めてホームカミングデーに出席しました。コロナ禍で 4 年ぶりの開催との事、皆様におかれましても特別なお気持ちがあったのではないかと思います。

上田の澄んだ空気と緑豊かなキャンパスに足を踏み入れると、いかに恵まれた環境であるかを学生の頃よりも強く実感しました。地元ではないのに「帰ってきた」という気分になってしまいます。

午前中の座談会では、森川先生、藤吉様、枝村様、村川先生による、繊維とその環境や未来に関する貴重なご意見を伺う事ができました。繊維は未来永劫に無くなりたいけれども、時代と共に変わっていく。

そして、異分野と融合できるという事。90分にはとても収まりきれないほど繊維の可能性を感じました。

昨今よく耳にする LCA については、業務上、今年ちょうど社外のセミナーを受講したばかりだったので、卒業後の 10 年の間に大学の講義も進化していたのだと驚きました。時折、登壇者の皆様の学生時代のエピソードもお話し頂き、アットホームな雰囲気を感じられました。自分と同じ学部・学科の先輩方が業界で活躍されており誇らしく思います。

お昼の懇親会では、千曲会や卒業生の方々、在学生の親御さんともお話しできました。まだ関数電卓が無かった頃の計算、卒業後のご趣味などもお聞きでき、このような場でしか得られない出会いに嬉し



くなりました。

午後の発表大会「つながるひろがる」はまさにその名の通りで、皆様の自由な発表から今後に繋がるきっかけがあちこちに見られたと思います。私の友人も自身の経験を自分の言葉で表現していたのが良かったです！

閉会后、先進繊維棟と感性工学棟との間に新しく建った真綿蚕糸館を見学しました。語弊があるかもしれないのですが、こんな所にこんな素敵なミュージアムがあるなんてと羨ましくなり、森川先生が仰っていたインスピレーションを与える場、伝統技



術を残したいという事も納得でした。絹の製糸実習も思い出され、他の大学ではなかなか経験できない貴重な実習だったとありがたく感じました。

このように、私にとっては懐かしさと新しさを感じ、リフレッシュにもなった一日でした。いつか先生方や諸先輩方のように社会や地域に貢献できるよう、今後10年、20年と自身の仕事に励んで行きたいと思います。

最後になりましたが、ホームカミングデーの運営や発表に携わった皆様に御礼申し上げます。またの機会にお会いできる事を楽しみにしております。ありがとうございました。

「不良学生が公認会計士試験に合格するまで」

山本(松本)若菜 (応化課6)



令和4年公認会計士試験論文式試験に合格しました。

公認会計士とは、公認会計士法第一条によると、監査及び会計の専門家として、独立した立場において、財務書類その他の財務に関する情報の信頼性を確保することにより、会社等の公正な事業活動、投資者及び債権者の保護等を測り、もって国民経済の健全な発展に寄与することを使命としています。

公認会計士の独占業務は会計監査です。働き方の選択肢としては、監査以外に一般企業で経理業務を行うこと、内部統制の構築、あるいはコンサルティング会社での勤務、税理士登録を行うことにより税務業務に従事すること、新規上場準備会社への支援など多岐にわたります。

私は、監査法人にて独占業務である監査に従事しています。

私が現在関与しているのは、製造業、金融機関、サービス業、不動産業です。公認会計士の仕事の面白い点として、ただ会計数字を追いかけているだけでは成り立たないことです。監査対象である会社で働く従業員からヒヤリングをし、熱心に話を聞くことで、会社の事業内容、生産プロセス、製品、事業環境を理解するよう努めます。その先に深度ある監査を行うことができます。結果的に、監査を通して一つの業界だけではなく、関与した業界を知ることができるので、元々好奇心が旺盛な私にとっては刺激的な日々です。担当者から個人的な悩みを打ち明けられることもあります。クライアントによって社風が違うこともあり、金融機関へ赴くときはお堅いスーツを、アパレル業界へ赴くときはデザイン性の高い洋服を着ていくなど、クライアントに合わせて、服装を変えることがあります。

公認会計士は経済学部や商学部といった文系学部出身者が割合としては多いですが、前述の仕事内容の特徴もあり、様々なバックグラウンドの人の活躍の場があります。実際に同僚には元薬剤師、理工学部出身者、パティシエとバラエティに富みます。では、私はどのような経緯で公認会計士という資格と出会い、目指すこととなったのでしょうか。

合格までの日々は決して平坦ではなく、紆余曲折しました。私は2010年3月に高校を卒業し、その年の4月に信州大学繊維学部化学材料系に入学しました。高校生の時から特に何か明確に何をやりたかが定まっていたというわけではありませんでした。それでも負けん気やハングリー精神だけは人一倍強く、プライドも高かったので何者かにはなりた、という中二病を拗らせたまま高校を卒業しました。そのような私は、母からの勧めで繊維学部を受験しました。負けん気が強い私にとっては「繊維学部は日本で唯一の学部」という点に惹かれたこと、そして私の高祖父が上田蚕糸専門学校時代の教授（岡徳治郎）で、曾祖父は上田蚕糸出身（岡享四郎）という縁から受験し、入学しました。

しかし後期試験で大学に合格したということもあり、元々別の大学を志望していたので、挫折感を感じて入学しました。さらに、一緒に入学した仲間の中には、明確に将来研究したいことを持ち入学す

る者が少なくはなかったので、劣等感を感じました。そして大学一年生が終わろうとしていた、2011年3月11日に東日本大震災が起きました。そこで自分の人生観を見つめなおした結果、大学を休学し、医師を目指すことにしました。それでも合格には届かず、結局、大学を復学しました。上田では多くの機会が用意されていました。例えば、信州大学ファイバーイノベーションインキュベーター施設（Fi）で開催しているイベントへ参加し、知的財産権についての講演会を聴いたことが特に印象に残っています。

就職活動を経て、女性として長く働くこと、専門的な経験・知識を持って同時に複数の会社へ関与することができる資格はないかと探していた時に公認会計士を見つけ、目指すに至りました。

監査法人で勤務するようになり、一年目から専門家として扱われます。日々の法改正、会計基準の改正へ対応するために知識をアップデートしなければならない毎日はハードです。それでもクライアントから会計処理の相談を受け、基準に基づいて見解をお答えし、感謝される時、とてもやりがいを感じます。

これを読んでいる卒業生、在校生の中にはかつての私のように悩み、進路選択に迷っている方がいるかもしれません。私はそのような時に千曲会報を読んで背中を押されました。選択肢の一つとして私の経験がお役に立てれば幸いです。

長野県から発酵食の魅力を発信するため、 「発酵バレー NAGANO」を発足しました！

吉川 茂利（機高5）



今年のホームカミングデーは、10月21日(土)に2019年以来4年ぶりに開催され、県内外から100名近い卒業生、在校生、保護者の方が参加されました。昼食懇親会後の午後に初めて企画された「つながる広がるトークセッション」の中で、11月24日、25日に開催予定の表記「発酵バレー NAGANO キックオフイベント」について事務局を務めている筆者より紹介させていただいたので、その実施報告と共に寄稿させていただきます。

1. 背景

2018年11月に長野県や食品製造業各団体は、地域で古くから製造が盛んな発酵食品を通じて、健康増進や産業振興を目指す「『発酵・長寿』県宣言」

を発表しました。それから5年が経過し、コロナ禍で消費が停滞した状況を打開するため、県内の発酵食品8団体・企業（みそ・日本酒・ワイン・醤油・漬物・納豆・チーズ・酢）は、長野県味噌工業協同組合連合会 青木時男理事長の呼びかけにより、さらなる認知拡大・魅力発信にむけて、「発酵バレー NAGANO」の設立へと至りました。

本コンソーシアムは、長野県内の発酵食品産業団体が連携して長野県が誇る発酵食（健康食）の魅力を、広く県民に、さらに海外から長野県に来られる方に発信し「NAGANO と言えば、発酵・長寿県というブランドを構築すること」を目的としています。

2. キックオフイベントの概要

11月24日の「和食の日」（いい日本食の日）には、長野県内の発酵食品産業8団体・企業が一同に集結するとともに、内閣官房 デジタル田園都市国家構想実現会議事務局 内閣審議官 西 経子氏による「発酵バレー NAGANO への期待」をテーマとする基調講演が行われました。また、翌日11月25日(土)には味噌やチーズといった発酵食品の手作り体験やNAGANOの老舗 若旦那・若女将トークセッションや発酵セミナーのほか、全国の品評会鑑評会等で農林水産大臣賞等を受賞した商品を購入いただける展示即売会が行われました。

今年は、和食がユネスコの世界遺産に登録されて10年の節目となり、より和食への関心の高まりが予想されます。この記念すべき年に味噌や醤油を始めとした、日本の食卓に欠かせない発酵食品の団体や企業が一堂に集結し、連携したコンソーシアムを結成するユニークな機会となりました。

【会 場】

ホテルメトロポリタン長野2階「千曲」及び「梓」

【内 容】

■ 11月24日(金) 基調講演・パネルディスカッション
基調講演

テーマ：「発酵バレー NAGANO への期待」

内閣官房デジタル田園都市国家構想実現会議事務局
内閣審議官 西 経子氏
進行：長野県立大学 健康発達学部 教授
中澤 弥子氏

パネルディスカッション テーマ：

「発酵長寿県 NAGANO のために産学官連携で
何ができるか」

国立大学法人信州大学 副学長 工学部長 天野 良彦

氏 / 長野県立大学 健康発達学部 教授 中澤 弥子氏 /
長野県 産業労働部長 田中 達也氏 / 長野県酒造組
合 会長 宮坂 直孝氏 / 信州ワインバレー構想推進
協議会 会長 成澤 篤人氏

進行：長野県味噌工業協同組合連合会

信州味噌研究所長 吉川 茂利氏

■ 11月25日(土) 10:00 ~ 16:00

展示即売会・体験会・トークセッション

(1) 参加団体・企業による展示即売

(2) 体験会

チーズボール作り、味噌作り体験、味噌食べ比べ、醤油の秘密と味比べ

(3) トークセッション

1. 13:00 ~ 「長野県発酵食品の魅力とは」

2. 13:30 ~ 「NAGANO の老舗若旦那・

若女将トークセッション」

3. 14:30 ~ 「発酵飲料としてのワインと、

日常の楽しみ方」

「発酵バレー NAGANO」の概要

名 称：発酵バレー NAGANO

設立日：2023年11月24日(金)

所在地：〒380-0928 長野市若里 1-1-2

長野県味噌工業協同組合連合会

U R L : <https://hakkou-valley.nagano.jp/>

理事長：青木 時男

(長野県味噌工業協同組合連合会 理事長・
マルコメ株式会社 代表取締役社長)

活動内容：国内でのイベント連携、国内・海外展示会への出展、製品開発の連携、広報活動の連携、観光ツーリズムの連携、産学連携による研究開発拠点の形成

組 織：長野県味噌工業協同組合連合会 理事長

青木 時男 (マルコメ株式会社)

長野県酒造組 会長

宮坂 直孝 (宮坂醸造株式会社)

長野県ワイン協会 会長

武田 晃 (有限会社たかやしろファーム)

長野県醤油工業協同組合連合会 理事長

米山 弘 (伊那醤油株式会社)

長野県漬物協同組合 理事長

古越 三幸 (株式会社くるまや)

長野県納豆組合 理事長

村田 滋 (有限会社村田商店)

内堀醸造株式会社 代表取締役社長

内堀 泰作

株式会社アトリエ・ド・フロマージュ

代表取締役社長 高田 和明

3. 今後の展開

1) 産学官連携による技術開発や新商品開発への支援
長野県内には、信州大学、長野県立大学、県工業技術総合センター、発酵バレー NAGANO、食品産業を支えている食品企業等があります。それぞれの方々が持つノウハウを十分に活かし、発揮させるためには産学官の連携による商品開発の仕組みの構築が必要であり、この仕組みによる、発酵食品産業を担う人材の育成や国内外で本県発酵食品の力が発揮できるように付加価値の高い商品づくりを進めていくことが重要と考えています。

2) 発酵食品の持つ歴史文化を絡めた海外での販売力・発信力の強化

長野県の発酵食品の優位性について、その歴史や文化、新たな調理方法等を絡めながら、海外で開催される商談会等で積極的に PR し、認知度向上と輸出拡大を図ることが重要であります。このため、JETRO、長野県営業局、そして輸出ノウハウを有する民間企業との連携のもと、輸出拡大を進めていきたいと考えています。

3) 観光業界や地域と連携した、「発酵食ツーリズム」の定着

県内には、味噌蔵、酒蔵、ワイナリー等の観光資源があります。これまでは、例えば、酒蔵のみを周

遊するなどの取組みが主体でしたが、今後は、「発酵食品」と「健康」との関係や、地域の食文化等を学ぶ、「学び」等の異業種間連携による、「発酵・長寿県 NAGANO」らしい、「長野県に行かないと体験することができない」発酵食ツーリズムの定着が地域創生においても大変重要であると考えています。

4. 結びに

発酵食は日本の伝統食であり、全国各地域に根付いております。今回ご紹介したコンソーシアムは、長野県内の発酵食品 8 団体が結集して、連携した事業展開をすることによって、その認知度を高め、県内各地域で大切にされてきた発酵食の魅力を全国にさらには海外に発信していきたいという目標を持っています。加盟団体はスタート時には 8 者ですが、企業数では 318 社、延べ人数 6,107 名の横断的組織になります。これは、全国に先駆けた、発酵に特化した、他に例を見ないユニークな組織ではないでしょうか。今後は、チーズ・ヨーグルトやクラフトビールの企業参加も見込まれています。このコンソーシアムが発酵食品による地方創生の 1 つの事例になればと期待しているところです。キックオフイベントが終了し、およそ半年間の準備期間を経て船出したところですが、これから上記 3 で記載した 3 つの事業を産学官民の連携により進めて行きたいと考えています。

クラス会・同門会

学工 24 (昭和 51 年卒) ‘鯉会’ 報告

「〇〇を食べる会」第二弾、『京都・貴船・川床で鯉(はも)を食べる会』を令和 5 年 8 月 6 日、参加者 12 人で開くことが出来ました。京都市内は酷暑でしたが、さすが貴船、川床を冷たい貴船川が流れ、マイナスイオンの効果もあり、天然の涼しさを味わえました。

鯉は関西ではポピュラーな食材です。祇園祭と鯉は夏の風物詩です。この鯉、小骨が多く、職人さんが鯉専用包丁で皮一枚残した骨切りの音がニュースに上がってきます。ああ～、夏だな～。

今回、常連二人が体調不良、コロナ関連で二人が欠席。お酒代は安く済みましたが。古希を迎えた同窓生、若いときの無茶苦茶が崇ってきたのか、老いなのか、話題は、先ず、持病から始まり日常生活に移っていきました。8ヶ月前「蟹を食べる会」で会っておきながら、何か老けたように感じました。にぎやかな常連二人が抜けたからかな。本当に会える時は会うことが大切だと感じた次第です。次は、信州で開いてくれるので、楽しみです。

最後に落ちを一つ。「皆、千曲会報見たか?」「鯉の記事が載っていた。おまけに写真と名前が載っていたよ」。続いて、「あれを見て、会費を払ったよ。」「俺も」「俺も」。大爆笑でした。

(文責 北林 滋 学工 24)



後列左から
袋省治、渡邊眞吾、西村（奥野）睦夫、北林滋、尾上和志、六川洋輔、須戸由幸、北林（妻）三津子
前列左から
松本全博、宮入孝敏、山下哲男、土屋（妻）攝子、小山敏彦、土屋陽一郎

学工 17（昭和 44 年卒）クラス会

私たち繊維工業科の昭和44年卒業生は、令和5年9月24日に77歳の喜寿祝を兼ねて岐阜県長良川温泉、鶴匠の家すぎ山でクラス会を開きました。岐阜県在住の豊田氏が幹事で14名参加しました。私たちは一般教養から繊維学部で受けました。翌年から教養部が松本に統合されたため、入学から卒業まで4年間を上田で学んだ最後の卒業生です。

各自の近況報告など和気あいあいの宴会の後、伝統的な漁法を受け継ぐ有名な長良川の貸し切り船で見物し、1300年の風雅絵巻を満喫しました。その後、宿の部屋に戻り富山県から参加3人の手土産の名物の吟醸酒と蒲鉾で二次会を開き、上田での思い出話に花が咲きました。

翌早朝、ホテルの露天風呂から眼前の金華山と岐



後列左から：山田明（学農17）、田中清五、吉田亮、吉田哲郎、飯島収二郎、鈴木正徳、片岡（浮田）明正、豊田隆夫、関谷和敬
前列左から：山本敏郎、中西月王、杉山雅夫、吉田睦雄、富永和雄

阜城、眼下の長良川の眺望は最高でした。次回は信州で開催予定です。

（学工17クラス世話人 富永和雄）

北條先生を偲ぶ会の開催

未だに新型コロナウイルス感染症は終息していませんが、通常の感冒と同じ病気の分類となり、色々なイベントが順次復活するようになりました。北條研究室門下生はこれまで、毎年のように「北條先生を偲ぶ会」を実施してきましたが、コロナ禍であっ

たことと先生がお亡くなりになったこともあって、中途半端な状況のままであり、けじめとして先生の薫陶をうけた門下生が、ご家族を囲んで「北條先生を偲ぶ会」をすることになりました。コロナの影響は様々な面で大きく、会場も今はやっていない所も多く、処々がして上田温泉祥園が運営する「寿久庵」にようやく決まりました。8月18日はお盆の後半の時期で、ご家族を含めて18名が寿久庵に

集まりました。これまでの北條研の活動をビデオ編集したものを上映したり、近況報告をして懐かしい学生時代を振り返り、楽しいひとときを過ごすことができました。一部の人々は変化した上田の町を眺めながら二次会に行き、翌日は猛暑の中で親睦ゴルフも楽しみました。学生時代の付き合いは一生の宝だというのをしみじみ味わったひとときでした。

(文責：中嶋和彦)



後段左より 鈴木、南出、橋詰、尾崎、市川、信吉、檜垣
中段左より 岩木夫妻、福家、夏目、漆戸、中嶋、八木
下段左より 北條裕信、北條令子、北條真理、白井

信濃路会 関西在住、水環境コースを 学んだ者の会

1960～70年代に主に繊維農学科で「水」をテーマとする研究に関係した者の関西在住者の集まりです。コロナ禍で中断していましたが、4年ぶりに4月18日に大阪・梅田で開催。急な呼びかけにも関わらず11名の顔が揃いました。

恒例のランチ会なので、飲み放題の値打ちもなくすぐにほろ酔い気分。お互いの「今何やってんねん」、「なんもしてへんわ」、「いやあ、医者にな…」と近況披露の後、やっぱり爺さんたちの「昔々あるところに…」の懐旧談だったり、「実はあの時な…」の告白談? 「あいつ、あの、あのあれはどうしてる」の消息談で盛り上がりました。それぞれ年齢を重ね、抱えている問題もあるのですがひと時上田時代にかえってリフレッシュできたはずです。

そうそう、神奈川在住の桑名さんから帰郷先で採ったワラビ、しかもアク抜き済みのお土産げをいただきました、恒例になっており感謝。

最後に、この会は1970年ごろ指導教官、小泉清明・八木博・櫻井善雄氏を囲む会として発足したプラナリア会の切れ端です。命名された櫻井先生が過日鬼籍入りされました。研究への真摯な取り組みに接した教え子として寂しさひとしおです。(合掌) 脅威の再生力を持つプラナリアのようにこの会もまた来年です。水に関係なくても、関西でなくてもどうぞご参加ください。(文責：上垣内郁夫)



出席者(数字は学農期)
(後列左から) 寺野16、桑名18、井上21、加藤21、川本24
(中列) 松井22、南14、三船22
(前列) 上垣内16、小野沢15、原21

18会（学工18回卒クラス会）開催の報告

私達学工18回卒は、クラス会を千曲会のグループ会に18会として登録して、10月21日(土)に母校のホームカミングデーの行事終了後、母校にも近い上田駅前寿久庵にて開きました。

前回の松本美ヶ原温泉での開催からコロナ禍による4年間のブランクがあり、集まるか心配でしたが大阪から坂元君、京都から川上君、小山君、東京からは内田君、大山君、桑津君が、そして地元の工藤君、島田君、田中（正一）君、塚田君、星野の11名の参加を得て楽しい時間を持ちました。それぞれの近況やら学生時代の懐かしい思い出話に華が咲き、卒

業以来53年の時を一気に取り戻したようなひと時でした。

私達は、松本での教養部を始めて経験した1966年（昭和41年）入学組のいわゆる団塊の世代であります。高度経済成長の中で働き盛りにはバブル景気やオイルショック等、好景気から不況まで様々な景気を経験して来て、今では殆どが定年を迎え悠々自適の生活です。宴たけなわとなりカラオケを歌いたいという声も上がるほどでしたが、時間の制約もあり、次回の幹事は塚田君にお願いすること、場所は再度上田近辺にしてあまり間を開けずに開催することを決定し

て、お互いの健康を気付かしながら散会しました。

宿泊の翌日は、希望者で塩田方面の散策をすることになり、坂元君、大山君、桑津君の遠方組と工藤君、田中（正一）君、星野の地元組6人で、以前千曲会報に掲載されていた上田蚕糸専門学校学徒出陣戦没学生の鎮魂の碑を参拝し、国宝八角三重塔のある安楽寺、北向き観音、更には戦没画学生慰霊美術館「無言館」を巡ることが出来、秋の好天にも恵まれ旧交を温めることが出来ました。（文責：星野）



左より
田中・小山・島田・大山・星野・内田・坂元川上・桑津・工藤・塚田

50年目の 化学工学科7回生クラス会

私たち化学工学科7回生は2023年に卒業50周年を迎えました。しかし卒業以来これまでクラス会を開催したことがなく、同期の農学科などはクラス会を頻繁に開催していることを同じ下宿だった友人から聞いて羨ましく思っていました。卒業して半世紀と言う節目の年に当たり初めてのクラス会を企画したところ、連絡が取れた20名中、12名が上田に参集してくれて10月1日50年ぶりに開催することが出来ました。仕事の都合で出席できなかった1名ともライン電話を繋いで会えましたので今回は計

13名の参加となりました。

青年期に別れたまま老年期になっての再会のため「誰が誰か分からないのでは?」と不安に思う方が多かったので「4F 化工クラス会」と言うグループラインを作り、事前に参加者に卒業式の集合写真を送って思い出して貰いました。その効果もあって昔の面影を残す顔と名前が一致し、直ぐに打ち解けて学生時代の話に花が咲き、盛況のうちに1日目は終了しました。

翌日は学部正門前に集合した後、森川学部長にご無理をお願いして学部長室で繊維学部の現状をご説明いただきました。その後、講堂や旧千曲会館、貯蚕庫、新設された真綿館などを見学させていただき、私たちの時代にはなかったマルベリーホールで孫世代の学生たちに交じって学食の昼食を摂らせていた

できました。クラス会の締めくくりとして現在は事務棟になっている旧化学工学科棟前のシンボルである昭和天皇お手植えのヒマラヤ杉の前で写真を撮り、今後もクラス会を定期的に開催することを約束して2日間に渡るクラス会は無事終了しました。

末筆になりましたが、私たちのクラス会を開催するに当たり、多大なご協力をいただきました森川学部長とスタッフの方々、及び千曲会の皆様に感謝を申し上げます。どうもありがとうございました。VIVA! 繊維学部。

(川崎利治 記)



後列左から塩崎、田畑、高橋、村岡、中司、山崎、高井
前列左から横井、西沢(旧姓柳沢)、川崎、宮崎(旧姓塩沢)、松原

繊維農学科(学農21期) 2023年同級会

ようやくコロナ禍が一段落したため、学農21期の同級会を11月8日～9日、姫路市在住の田尻氏を主幹事に関西在住者3名のご尽力もあり、4年振りに姫路市で開催されました。

学農21期は28名在籍していましたが、物故者3名で現在25名のうち16名参加でした。コロナ禍前の2019年までは毎年開催されていましたが、いつも半分以上の参加者があり今回も64%という驚異的な出席率でした。

ちなみに2023年3月で学農21期は卒業50周年を迎え、加齢と共に身体のあちこちに障害をかかえながらも夜の懇親会は二次会まで盛り上がり、翌日の姫路城見学も精力的に実践しました。

「そろそろ同級会も打ち止めにしたら」とか「今後は全体で開催することが難しいので、地域ごとに小グループでの開催になるのでは」等の意見百出でしたが、来年は大阪府在住の田中氏が幹事を引き受ける運びとなり、その後も続いて行きそうな雰囲気がありました。古希を過ぎても同級会には出席者の皆さんから元気をもらえる不思議なパワーがあります。来年も元気で再会しましょう! との合い言葉で締めくくった今年の同級会でした。

(学農21期、掘 修 記)



11月8日 懇親会后に
後列左から 宮下(女性)、原、笹井(女性)、
神山(旧姓:小山(女性))、
丸山、広部、栗田、平出、井上
前列左から 掘(建部)、中澤、加藤、大谷武、
田中、大谷喜一郎、田尻



11月9日 姫路城をバックに
後列左から 堀(建部)、田中、中澤、平出、丸山、神山(小山)、原、笹井
前列左から 桑田、大谷武、大谷喜一郎、加藤、井上、宮下、田尻

繊維機械学科 10 回生 (昭和 45 年入学) クラス会の開催

9月28日に愛知県の蒲郡温泉で繊維10の同級会が開催されました。

2018年に35年ぶりの同級会が別所温泉で開催され、あまりに盛り上がったため続けようと、翌年も別所温泉で開催しました。その際に、次回は気分を変えて信州以外で集まろうと蒲郡温泉に決めたのですが、コロナ禍により延期となっていました。その後、コロナ対策が緩和されたので、皆が再開を待ち望んでいた同級会を開催しました。

東は茨城県、西は大阪府から駆けつけてくれた人を含め13名が参加しました。早く皆と顔を合わせたいとの思いからか、ホテルのチェックイン前から到着した人もおり、宴会前から話に花が咲きました。温泉に入って一息入れた後に、本番の宴会へ移りました。宴会では、一人ひとりが近況(地域活動での活躍、興じている趣味、闘病生活からの復帰、悠々自適な日常、ハプニングな事件など)を報告することにガヤを入れたり(年を取っても学生気分は抜けてない)、隣同士でバカ話で盛り上がったりと、和気あいあいの時があっという間に時が過ぎました。しかしながら、寄る年波には勝てないためか、話に夢中になり過ぎたためか、コロナ前のように酒量は進まず、幹事が予算の超過を憂慮したことが徒労に終わりました。宴会が中締めとなった後は、全員が当然のように幹事の部屋に戻り、昔話の続きやたわいない話が弾きました。語り疲れた後は、それぞれの部屋へ戻ってお開きとなりましたが、中には明け方まで語り合った人達もいたようです。

今回事情があって参加できなかった方も、次回はぜひ参加して共に楽しく語り合いましょう。(田中 章)



後列左から 伊藤雄二 辻龍一郎 藤井隆 近藤義盛 山田敏治 朴木秀樹
前列左から 降旗久雄 湯澤公明 熨斗伸吉 田中章 大槻章 井ノ口昭雄 池田和美

2023年度 S48年卒業同期会報告

11月7日、秋本番絶好の時季での開催となりました。毎年開催しています同窓会ですが、今年は千曲会グループ会にも登録し、信州大学卒業50年でしたので、上田市（繊維学部）界限開催となりました。

当日は上田駅に参集、そのまま“別所温泉 あいそめの湯”に直行、日頃の垢をほんのり硫黄臭漂う温泉♨でゆっくりしました。その後、千曲会館にチェックインしたあと、上田温泉“寿久庵”にて、一年振りの宴会を開催しました。

38年振りの阪神タイガース優勝話、今年の農作業話、下宿先でのエピソード、はたまた本当かどうか？“赤鉄橋渡りの武勇伝”と、上田開催ならではの話で盛り上がりました。宴会後、当時の下町花街に行きました。全く変わっていたものの、なんとなく懐かしい気持ちになれたとか。翌日早々に、繊維

学部構内を見学、立派な建物の多さにびっくりしつつ、大木の成長に繊維学部の歴史を感じました。

来年もS48年卒業同期会での再会を約束、各位の時間の都合上、上田城見学組と善光寺見学組に別れの解散となった。（山崎正司〔幹事 化工7〕）



後列左から 岡本（学化21）、山崎（化工7）、伏見（信大農学部）
前列左から 斉藤（学化21）、加藤（学化21）、唐木（学化21）

最後の同級会 学化11

毎年欠かさず続けてきた学化11の同級会。4年ぶり、新潟県妙高市の温泉で爽やかな秋11月7、8日に開催しました。後期高齢者（末期高齢者とも？）の4年間、老いの進行も早いのか体調不良や病気での欠席者も多く、女性3人を加え9人の出席で若干淋しい感も否めませんでした。参加されたみなさん健康面を気にしながらも今回が最後の同級会になるかもと、無理を押しして岡山、奈良、愛知、東京、埼玉と遠くから参加されました。

一日目は妙高山を仰ぐ高原の夜に4年ぶりの再会を語り合いました。趣味、健康面、この先のこと等々さまざまなことを一人ずつ巣ごもりであった間の近況を報告してもらいました。また来年以降の同級会については中止とする。来年度以降は非公認での同級会とし、引き受けてもらえる幹事がいれば開催するという事にしました。しかし来年は引き受けていただける方がおり、元気でいればまたみなさんにお会いできる機会があるものと思います。夕食後は学生時代の写真をスライドショーにまとめ、ミラーリンクでテレビに映し出した映像を見ながら



後列左から 西沢信 福家俊吉 荒井肇 赤川正二 滝本寿照
伊藤照郎
前列左から 熊谷広子 森明美 荒井郁子

60数年前を語り、懐かしみ最後となる同級会を過ごしました。

2日目は朝から雨となりましたが6人、旅館の好意で近くにある逆さ妙高山が見えるという「いもり池」へバスを走らせていただきました。雨傘を差しながらの高原の紅葉のいもり池を散策し、帰りもバスで妙高高原駅まで送っていただき二日間の同級会にさよならをしました。一応、学化11最後の同級会となり、みなさまの健康と幸せをお祈りします。

（文責 西沢 信）

第22回 修己寮同窓会の報告

令和5年6月8日に群馬県伊香保温泉で22回目の修己寮同窓会を開催しました。昭和48年49年卒業生の有志が発起人となって始めた修己寮同窓会は、世界中が2000年問題で大騒ぎをしていた1999年(平成11年)、上田市内で第1回目を開催して以来毎年行っています。令和2年、3年、4年の3年間はコロナウィルス蔓延のため開催することができず、万年幹事の私にとって寂しさと物足りなさを感じた3年間でした。

昭和49年に大学を卒業した当初は、修己寮で寝食を共にして気心の知れたOB数人が、時々上田市に集まり飲み会を開いていました。上田在住の私が毎回幹事をする事になり、長野県内や近県の温泉地でも宴会を開催していました。その後、私が海外駐在で日本を離れていた間、飲み会は中断していたようですが、平成10年に「また修己寮OB会やろうよ」と卒業同期の修己寮OBに背中を押され、平成11年に上田市の「上田温泉ホテル祥園」で宴会を行いました。久しぶりに会う同期生や先輩後輩と、寮生活の昔話に花が咲き心和む一夜でした。その宴席上で、これからも毎年集まろうという事になり、私が幹事として、毎年「修己寮同窓会」の開催計画を立てることになりました。第1回から第5回の同窓会は上田市内で行いましたが、場所を変えてやりたい、妻子同伴でもよいのでは、との要望があ

り、長野県内の温泉地や北陸、東北、四国、中国地方の温泉地で、同窓会兼家族旅行の形で開催してきました。よくぞここまで続いたものだと感心すると共に、毎回遠路参加してくれる修己寮OBの方々には感謝以外に言葉が有りません。

今回の同窓会はコロナウィルス騒動が完全に終息していない中での開催となるので、長野県の近県在住者だけに案内を出しました。4年ぶりという事も有り参加者が集まるか不安でしたが、修己寮OB12名、家族3名の15名が参加してくれました。一方、同窓会を休止していた3年間に、3名が物故者となってしまい残念でなりません。今回の開催場所を伊香保温泉に決めたのは、物故者の一人で沼田市在住だった故大平孝雄さん(農学21)の墓参りをする目的もありました。同窓会の開催が近づいた今年5月上旬、修己寮OBの幸重敬三さん(学工24)が1月に逝去したとの連絡が奥様から届き、5月下旬には本田俊治さん(学工23)が3月に他界したと奥様から電話がありました。同窓会当日の宴会冒頭に報告し、全員で黙禱をして故人の冥福を祈りました。故人を良く知る参加者は、早すぎる逝去に驚きと寂しさを感じながら、故人を偲んでいました。参加者は互いに近況を伝え合い、三人の思い出を語り合い、健康である事の大切さをかみしめ合う一夜でした。

翌朝、小雨の中を参加者全員で伊香保温泉を出発し、国道17号線を北上して沼田市の上毛高原メモリアルパークに向かいました。途中で雨も上がり、1時間ほどのドライブで墓地に到着しました。故大平孝雄さんが生前建立したという黒御影石の墓石に向かい、一人ずつ焼香して故人の冥福を祈りました。墓地は沼田市西側の山の中腹にあり、周囲が広々としていて、沼田市街地の全景や日光尾瀬に至る山々を一望できる清々しい場所です。残念ながら当日は雨上がりの曇り空で、山々を眺望することはできませんでしたが、利根川沿いに広がる沼田市の家並がきれいに見えました。大平夫人が、上州名物だと言って、「鳥めし弁当」を用意してくれていました。全員が大平夫人のご厚意に感謝しつつ「鳥めし弁当」をいただき、来年の再会を約束して墓地で解散しました。(降籬久男〔機10〕)



(後列左より)丸山、降籬、竹中、岩井、山岸(村松)、岩井(子)、高沢、野口
(前列左より)中嶋、横山、柳、山岸(妻)、北原、岩井(妻)、一柳

支会だより

2023年の上小支会ハイキング記

2023年8月6日(日)、連日の猛暑が続くなか涼しさを求めて上小支会ハイキングを今年は八千穂高原自然園で実施しました。総勢20名が事前にエント

リーしていましたが、直前に1名が体調不良で辞退されたため19名の参加となりました。千曲会館を8時半に出発した9名の他、マイカーで直行された方や千葉県から参加のご夫婦は佐久平駅からバスで目的地まで乗車されました。

北八ヶ岳の樹林帯から湧き出る湧水は水量豊かでウォーキングコースにある2箇所の滝(もみじの滝、飛竜の滝)が間近で見られ、其所での昼食時間は涼しさと相まって大変満足できる一時となりました。最後に自然園入口前のテーブル席を囲んで参加者各自が一言の自己紹介をして親睦を深め、全員の集合写真を撮ってから解散となりました。

猛暑のなか、参加者全員が無事にウォーキングを終えたことでイベント担当としてホッとしています。信州には近くに素晴らしい景勝地があることを再認識し、また来年も企画していきたいと思っています。

(イベント担当 堀 修)



南信支会 令和5年度総会報告

南信支会を10月14日(土)4年ぶりに開催することが出来ました。南信支会は、諏訪・上伊那・下伊那と広範囲に渡る地域なので、開催場所を持ち回りにして皆さんが出席し易いようにしております。昨年の会

場は上伊那の駒ヶ根シルクミュージアムに隣接する「駒ヶ根ふるさとの家」だったので、今年は下伊那方面を探して松川温泉「清流苑」に会場を設けました。

4年間のブランクがあったので皆さんに集まって頂けるか不安でしたが、学系9の鈴木さん、宮坂さんを始め学化10の西川夫妻、学紡10の河西さん、そして松下さん、吉山さんの両代議員に出席を頂き



左から 松下美香(学農34) 宮坂照彦(学系9) 鈴木猛(学系9)
西川峯子(学化10) 西川満佳(学化10) 河西敏勝(学紡10)
星野伸男(学工18) 吉山雅幸(化工24)

星野を加えた8名の総会となりました。

自己紹介を兼ねた学生時代の経験談や現在の心境等を皆さんにお話していただく中で、お互いの年齢は離れていても、共通の話題が出たりして同じ学校を卒業した仲間達で有ることが感じられ、同窓会の意義を再認識出来る時を過ごすことができました。紅葉には一寸早い時期でしたが、中央アルプス山麓

より流れ出る溪流近くの会場だったので秋の気配が感じられ、参加された皆さんには大いにリフレッシュして頂けた事と思います。

今回は岡谷蚕糸博物館と併設する宮坂製糸さんを見学出来る会が決定されてますので、皆様のお越しをお待ちしております。(文責 星野伸男〔学工18〕)

東京支会総会 4年ぶり開催!

令和5年9月30日(土)東京支会総会及び懇親会が、再開発が進む東京駅八重洲口の「アットビジネスセンター東京駅八重洲通り」で4年ぶりに開催されました。4年ぶりの開催となったため、準備などで少々戸惑うことなどがありました。無事開催にこぎつけました。

当日は大学から森川英明学部長、本部から石坂征洋専務理事をお迎えし、講演会では森川学部長から「繊維学部の原点と変化」という演題で講演を頂きました。日本の養蚕・製糸業と官立上田蚕糸専門学校在り、21世紀の基盤的材料となっていること。そして、繊維学部の教育研究体制の改革、教育プログラム、修士課程の産学連携特別講義、博士課程の次世代研究者挑戦研究プログラムについてなど繊維学部に関する多岐にわたっての講演となりました。卒業生からは繊維学部はいろいろなところで役立っているのだと改めて感じた。学部支援の寄附などは今まで以上に積極的にしたいとの感想もありました。

石坂専務理事から同窓会(千曲会)の歴史を整理するため、古い千曲会報の整理、また千曲会館の資料室の諸々の書類の整理を進めてきたこと。また、学部構内にはたくさんの石碑があるが、多くの石碑は碑銘だけでその石碑の由緒が分かる説明がないので、繊維学部の歴史などを伝えられるよう千曲会から石碑の説明版を寄付したこと。その説明版の具体的な話として「秋山義行翁」の逸話や繊維化学教室が設立できた経緯の説明がありました。その後、懇親会の会場へと移動し、近況などを語り合い、約2時間の懇親会もお開きとなりました。

翌日「久しぶりの皆さんにお目にかかれてうれしかったです」「久しぶりに楽しい東京支会に参加できよかったです」などのメールを頂き、改めて対面形式での同窓会の大切さを感じました。

来年も対面形式の同窓会が開催できるよう準備を進めてゆきたいと気持ちを新たにしております。

(東京支会長 薬袋正彦
学工26 記)



令和5年度 愛知支会総会が盛会に行われた

本年度の愛知支会総会・懇親会が令和5年10月14日に盛会に行われた。令和元年10月の前回から、コロナ禍による3回の中止を経て4年ぶりに開催することができた。

今回は、繊維学部から村上 泰先生並びに若月 薫先生をお迎えし、ウインクあいち（愛知県産業労働センター）で支会総会・講演会、名鉄グランドホテル（柏の間）で懇親会が行われた。愛知支会からの参加者は、昭和36年卒の古谷隆男先輩（学化9）から平成14年卒の吉松隆行君（機能機15）までという29名が参加した。

コロナは、5月8日に第5類に移行し、未だ収束には至っていなかったが、それでも、愛知支会の元気なところを自他共に確認し、幅広い年代から構成される開かれた愛知支会を実践できた。

総会開催前の講演会では、まず、村上先生から、「環境と繊維～繊維のLCAプラットフォームの構築に向けて～」というテーマで繊維業界の新たな発展に向けて注力する学部の状況をご説明いただいた。また、若月先生からは、「繊維学部から発信する防護服という新たな研究」というテーマで最先端の安全衣料の研究の概要を分かりやすくご説明

いただいた。これらの講演から、母校が世界に向けて、また、将来に向けて大きく前進しようとしている様子を伺うことができたと思う。

続く総会においては、前回の支会総会以来4年間の千曲会本部と愛知支会の活動を説明し、コロナ禍にも拘らず活発に活動を行っていたことをご理解いただけた。また、令和3年の本部理事会で愛知支会の夏目駿一先輩（学化15）が千曲会理事長に就任されたことを遅ればせながら改めて支会としてお祝いした。

総会後の懇親会は、4年以前と同様に先輩・後輩の枠を超え、青春時代を信州上田の地で過ごした仲間として、中身が濃く大変懐かしい時間が流れ、あっという間に楽しい2時間が経過した。

（記 愛知支会事務局）



令和5年度 千曲会茨城支会総会報告

日 時：令和5年11月11日 11時から13時

会 場：牛久市牛久町256 華屋与兵衛牛久店

参加者数：8名

議 題：

- 1) 令和4年までの活動報告
 - ・総会開催中止の経緯、支会長辞任の経緯、幹事会開催状況、アンケート調査結果等
- 2) 会計報告
- 3) 会計監査報告

4) 新役員の選出

支 会 長：矢島正晴

庶務幹事：片岡邦彦

会計幹事：寺島優司

会計監査：阿部新一

顧 問：大屋正明、蒲生卓摩

5) 次年度事業計画

「茨城支会だより」発行、支会総会の開催

6) 次年度予算案

7) 茨城支会の今後の運営に関する意見

以上の審議を経て総会を終了し、懇談を経て散会した。
(報告者 矢島正晴)

2023年11月18日 近畿支会 若手勉強会を開催しました

大阪産業創造館で、当日14時から16時半まで若手勉強会を開催しました。講師は、利光哲哉さん(昭和56年繊維工学科卒、現「利光コンサルティング」主宰)で、テーマは「『生成 AI はあなたの相棒です!』スマホでできる AI 活用術と中小企業の自前 DX 事例紹介」です。利光さんからは、今年になってがぜん注目されてきた「生成 AI」について、基本的なことから応用事例(官庁や中小企業の取り組み)に

ついて、詳しく講演頂きました。

また、AIとも関連する内容としてVR(仮想現実)の体験を、持参いただいたGoogleで各自体験いただきました。出席者からは普段疑問に思っていることなど、活発に質問が飛んでおり、講演後は堺筋本町駅周辺の居酒屋で懇親を深めました。なお利光さんは、繊維学部で「現代職業論」の講師もなさっております。



令和5年度三重支会 活動報告

【議 事】

1. 千曲会本部関係

- ・本部総会(82回 令和5年4月29日)活動報告
- ・ブロック長会議(令和5年12月19日)に予定されている。

2. 前回三重支会総会(令和元年10月27日)報告

- ・榊原温泉 榊原館で参加者7名
- ・三重県支部 令和5・6年度代議員候補は“太田清久”
- ・決算

3. 支会 活動報告

3-1. 三重支会総会:

令和5年11月19日(日)12:00 - 14:00

津市いせ門にて

参加者 5名 往復はがき119送付

返信者+宛先不明・死亡 52

3-2. 支会幹事 選任

- ・支会幹事を新たにもうける

鷲見保俊 高田元弘 伊藤 宣 今津隆二
太田清久の5名が選任された。

世話人:太田清久 本部代議員:太田清久

3-3. その他 各支会幹事が支会員に鋭意 連絡を

取ることを申し合わせた。

●オフィス家具●OA・IT機器●文具・サプライ

オフィスのことなら先ず丸陽へ!

Good system で Good business



TEL.0268-22-2400 上田市中央2-5-10

<http://www.maruyoh.com>

2024年元旦 本年もよろしくお願ひします

一般社団法人千曲会
理事長
夏目 駿 一 (学化15)
〒386-0018 上田市常田 3-8-37
電話 (0268) 22-4465

一般社団法人千曲会 最高顧問
信州大学名誉教授
白井 汪 芳
〒386-0407 上市長瀬 2496
電話 (0268) 42-2008

一般社団法人千曲会 名誉会長
信州大学繊維学部長
森川 英 明
〒386-8567 上田市常田 3-15-1
電話 (0268) 21-5301

一般社団法人千曲会 副理事長
日本フェルト株式会社 相談役
大山 芳 男 (学工18)
〒386-0018 上田市常田 3-8-37
電話 (0268) 22-4465

一般社団法人千曲会 副理事長
信州大学先鋭領域融合研究群
国際ファイバー工学研究拠点
先進繊維・感性工学科 教授
高寺 政 行
〒386-2202 上田市本原 2000-26
電話 (0268) 21-5536

一般社団法人千曲会 顧問
東京農大客員教授
(株)シンピケン代表取締役 CEO
医療法人社団 創世会 監事
宮下 忠 芳 (学農12)

一般社団法人千曲会 顧問
信州大学名誉教授
中沢 賢
〒386-0034 上田市中之条 280
電話 (0268) 24-0813

一般社団法人千曲会 顧問
信州大学名誉教授
山浦 和 男
〒386-0012 上田市中央 4-19-7
電話 (0268) 22-2056

一般社団法人千曲会 監事
信州大学名誉教授
藤松 仁 (化工6)
〒386-1102 上田市上田原 1088-7
電話 (0268) 27-1406

一般社団法人千曲会 顧問
東洋紡株式会社相談役
坂元 龍 三 (学工18)

一般社団法人千曲会 顧問
ダイワボウレーヨン株式会社
代表取締役社長
福嶋 一 成 (学工30)

一般社団法人千曲会 顧問
金井重要工業株式会社
代表取締役社長
金井 宏 彰 (機18)

一般社団法人千曲会 顧問
帝国繊維株式会社
代表取締役社長
梶谷 徹 (学工21)

東京支会
本年もよろしく御願ひ致します。
楽しく元気な！同窓会を今年も目指します。
支会長・本部理事・東京同窓会幹事
薬袋 正彦 S53 学工26
副支会長・東京同窓会幹事
小山 隆 S61 機高5
監査役 村上 貴洋 H5 精素3
幹事長 飯田 寛子 S30 学化3
幹事 河辺 誠 S63 機高7
幹事 大西 義人 S50 学工23
幹事 中沢 哲 S52 機 24
幹事 佐藤 寿美 S52 学農24
幹事(広報) 齋藤 英子 S55 化工14
幹事 枝村 正芳 H8 システム7
幹事 岡島 正章 H12 シスE11
幹事 安藤 健 H11 精素9
監事 都築 大輔 H14 応生14
相談役 西澤 厚男 S39 学紡糸12
相談役 武居 正和 S50 学工23
顧問 三村 光代 S36 学蚕9
顧問 菱川 信也 S4 学工17
顧問 大山 芳男 S45 学工18
顧問 清水 重人 S50 学工23

一般社団法人千曲会 顧問
富士紡ホールディングス株式会社 顧問
藤岡 敏 文 (学工28)

一般社団法人千曲会 顧問
株式会社 八光
相談役
丸山 勝 (機 3)

一般社団法人千曲会 顧問
西山 宏 (学化30)

群馬支会
新年おめでとうございます。
今年もよろしくお願ひします。
顧問 清水 治(学農16)
支会長 小林 要(学農27)
幹事長 上野 実(学農28)
幹事(代議員) 毛利 弘(学農29)
幹事(代議員) 竹之内 裕(機械21)
幹事 天田 敏明(機械22)
幹事 平井 里香(学化35)
幹事 石久保禎浩(機械24)
幹事 宮崎 哲(システム10)
幹事 下田みさと(応生23)

千曲会 愛知支会
支会長 山田 稔 (化工11)
副支会長 鈴木 雅雄 (学工28)
幹事 長谷川敏紀 (学工29)
幹事 井上 寿生 (機 18)
幹事 村松 久司 (学化33)
幹事 小林 和子 (化工22)
幹事 佐藤 真 (機高11)
幹事 西野 和彦 (素化8)
幹事 山浦 江浩 (感性3)
元気で明るい愛知支会！
本年もよろしくお願ひ致します。

千曲会 愛知支会
支会長 山田 稔 (化工11)
副支会長 鈴木 雅雄 (学工28)
幹事 長谷川敏紀 (学工29)
幹事 井上 寿生 (機 18)
幹事 村松 久司 (学化33)
幹事 小林 和子 (化工22)
幹事 佐藤 真 (機高11)
幹事 西野 和彦 (素化8)
幹事 山浦 江浩 (感性3)
元気で明るい愛知支会！
本年もよろしくお願ひ致します。

<div style="text-align: center;">  <h2 style="margin: 0;">2024年元旦 本年もよろしくお祈りいたします</h2> </div>		
<p>公立諏訪東京理科大学学長 信州大学名誉教授 AREC 理事長</p> <h3 style="text-align: center;">濱田 州博</h3>	<p>信州大学名誉教授</p> <h3 style="text-align: center;">下坂 誠</h3> <p>〒604-8076 京都市中京区海老屋町 323-3-502 Email shimosaka2001@gmail.com</p>	<p>機械・ロボット学科 バイオエンジニアリングコース教授</p> <h3 style="text-align: center;">小関 道彦</h3> <p>〒386-8567 上田市常田 3-15-1 電話 (0268) 21-5347</p>
<p>一般社団法人千曲会 顧問</p> <h3 style="text-align: center;">西澤 厚男</h3> <p style="text-align: right;">(学紡糸 12)</p>	<p>先進繊維・感性工学科 教授 国際ファイバー工学研究拠点</p> <h3 style="text-align: center;">金井 博幸</h3> <p style="text-align: right;">(感性 1)</p> <p>〒386-8567 上田市常田 3-15-1 電話 (0268) 21-5614</p>	<p>化学・材料学科 教授</p> <h3 style="text-align: center;">後藤 康夫</h3> <p>〒386-8567 上田市常田 3-15-1 電話 (0268) 21-5366</p>
<p>機械・ロボット学科 バイオエンジニアリングコース教授</p> <h3 style="text-align: center;">秋山 佳丈</h3> <p>〒386-8567 上田市常田 3-15-1 電話 (0268) 21-5517</p>	<p>先進繊維・感性工学科 感性工学コース教授</p> <h3 style="text-align: center;">上條 正義</h3> <p>〒386-8567 上田市常田 3-15-1 電話 (0268) 21-5521</p>	<p>機械・ロボット学科 バイオエンジニアリングコース教授</p> <h3 style="text-align: center;">小林 俊一</h3> <p>〒386-8567 上田市常田 3-15-1 電話 (0268) 21-5445</p>
<p>化学・材料学科 教授</p> <h3 style="text-align: center;">浅尾 直樹</h3> <p>〒386-8567 上田市常田 3-15-1 電話 (0268) 21-5410</p>	<p>機械・ロボット学科 学科長 機能機械学コース教授</p> <h3 style="text-align: center;">河村 隆</h3> <p>〒386-8567 上田市常田 3-15-1 電話 (0268) 21-5425</p>	<p>先鋭材料研究所 (RISM) 副所長 化学・材料学科 化学・材料学科ファイバー材料工学コース卓越教授</p> <h3 style="text-align: center;">杉本 渉</h3> <p>〒386-8567 上田市常田 3-15-1 電話 (0268) 21-5455</p>
<p>化学・材料学科 教授</p> <h3 style="text-align: center;">荒木 潤</h3> <p>〒386-8567 上田市常田 3-15-1 電話 (0268) 21-5587</p>	<p>先進繊維・感性工学科教授</p> <h3 style="text-align: center;">木村 裕和</h3> <p>〒386-8567 上田市常田 3-15-1 電話 (0268) 21-5362</p>	<p>化学・材料学科 教授</p> <h3 style="text-align: center;">鈴木 正浩</h3> <p>〒386-8567 上田市常田 3-15-1 電話 (0268) 21-5415</p>
<p>化学・材料学科</p> <h3 style="text-align: center;">宇佐美 久尚</h3> <p>〒386-8567 上田市常田 3-15-1 電話 (0268) 21-5459</p>	<p>化学・材料学科 教授</p> <h3 style="text-align: center;">木村 睦</h3> <p>〒386-8567 上田市常田 3-15-1 電話 (0268) 21-5499</p>	<p>先進繊維・感性工学科 教授</p> <h3 style="text-align: center;">田中 稔久</h3> <p>〒386-8567 上田市常田 3-15-1 電話 (0268) 21-5531</p>
<p>先進繊維・感性工学科教授 国際ファイバー工学研究拠点兼担</p> <h3 style="text-align: center;">大越 豊</h3> <p>〒386-8567 上田市常田 3-15-1 電話 (0268) 21-5364</p>	<p style="text-align: center;">SDGs につなぐ 夢の繊維ナノファイバー</p> <p>先鋭領域融合研究群 国際ファイバー工学研究拠点長</p>	<p>応用生物科学科教授</p> <h3 style="text-align: center;">田口 悟朗</h3> <p>〒386-8567 上田市常田 3-15-1 電話 (0268) 21-5342</p>
<p>先鋭領域融合研究群 国際ファイバー工学研究拠点教授 AquaTeX Medical, Inc CTO</p> <h3 style="text-align: center;">大川 浩作</h3> <p>〒386-8567 上田市常田 3-15-1 電話 (0268) 21-5573</p>	<p>学長特別補佐 卓越教授</p> <h3 style="text-align: center;">金 翼水</h3> <p>〒386-8567 上田市常田 3-15-1 電話 (0268) 21-5439</p>	<p>機械・ロボット学科 機能機械学コース教授</p> <h3 style="text-align: center;">夏木 俊明</h3> <p>〒386-8567 上田市常田 3-15-1 電話 (0268) 21-5421</p>
<p>応用生物科学科教授</p> <h3 style="text-align: center;">梶浦 善太</h3> <p>〒386-8567 上田市常田 3-15-1 電話 (0268) 21-5337</p>	<p>先進繊維・感性工学科 教授</p> <h3 style="text-align: center;">金 慶孝</h3> <p>〒386-8567 上田市常田 3-15-1 電話 (0268) 21-5365</p>	<p>化学・材料学科 教授</p> <h3 style="text-align: center;">野村 泰志</h3> <p>〒386-8567 上田市常田 3-15-1 電話 (0268) 21-5398</p>

2024年元旦 本年もよろしくお願ひします

Table with 3 columns and 10 rows. Row 1: 服部 義之 (Chemistry/Materials), 鮑 力民 (Mechanical/Robotics), 村上 泰 (Chemistry/Materials). Row 2: 橋本 稔 (AssistMotion), 堀江 智明 (Applied Biology), 山口 昌樹 (Mechanical/Robotics). Row 3: 林田 信明 (Applied Biology), 藤本 哲也 (Chemistry/Materials), 山本 博規 (Applied Biology). Row 4: 平林 公男 (Applied Biology), 松村 英生 (Basic Research Center), 吉田 宏昭 (Advanced Fibers). Row 5: 千曲会近畿支会 役員会 (Officers), 三浦 幹彦 (Shinshu University), 若月 薫 (Mechanical/Robotics). Row 6: 神奈川支会 (Kanagawa Branch), 千曲会上小支会 (Chikuma Upper Small Branch).

千曲会からの話題

一般社団法人千曲会 理事会報告

令和5年度第1回理事会議事録（要約）

【日時】 令和5年5月27日(土) 午前12時45分～12時55分

(1) 代表理事並びに三役選出について

理事長及び副理事長の選任において、審議の結果、満場一致で承認され、被選任者は今年度も継続して就任を承諾した。

記

理事長 夏目駿一
副理事長 大山芳男
副理事長 高寺政行
専務理事 石坂征洋

(2) 業務分担の承認について

議長より各業務の担当理事の分担について説明があり、今年度も継続して各業務を担当することを満場一致で承認した。

令和5年度第2回理事会議事録（要約）

【日時】 令和5年8月26日(土) 午後1時30分～4時45分

(1) 報告事項

① 学部協議会：夏目理事長より午前中の学部との協議会で、

a 学部115周年及び同窓会110周年記念事業の準備委員会設立

b ふるさと納税に関して山形大学米澤工業会の事例、上田市の寄付メニューを参考にして学部から利用すべく上田市に働きかける

c 海外支部との取り組み

d 千曲会入会を千曲会が直接教員に願ひする

など提議し、各事項が合意されたこと、また学部よりホームカミングデー及び保護者会についての準備状況の説明があった。また海外交流会費用の支援要望があり予算化する方向で検討する事などの報告があった。

② 会費・納入状況報告：石坂事務局長より、会報325号の送付数は約11,700通で送料は118万円だったこと、会費の納入は、卒40年以上への働きかけは効果が見られたが、卒40年未満は効果が少なかったこと、学生では1年生の保護者会費が少ないこと、などが報告された。

(2) 総務部の事業計画進捗状況及び代議員選挙規程の見直し

・上條理事より、会員確保に係る文書の作成、代議員選挙規程の改訂等計画事項は進行していることが報告された。

・小井土理事より前年度第4回理事会で決議した代議員選挙規程の改定案が提出された。選挙規定とは関連性の薄い付則の4「大学院代議員を千曲会の各委員会委員に任命することができる」の項目を削除し、改定案が承認された。

(3) 会員交流部事業計画進捗状況

・白井理事より、事業計画では新入生歓迎会が実施できなかったこと、ブロック支会長会議の予定があることが報告された。女子会開催企画案の提案があり承認された。

・石坂専務理事が補足し、海外支部との交流の在り方については、大山副理事長、高寺副理事長が中国同窓会に呼ばれ参加するので、海外在住会員からは会費を取らない、メールアドレスを登録してもらい

HP、オンラインでの交流をできるようにする、本件の連携窓口は学部は小林先生×千曲会は高寺副理事長・朱先生とする事とする旨の報告があった。

- ・三輪理事から、中国からのログインができない可能性があるという指摘があり IT 委員会でフォローする事とした。

(4) ホームカミングデー委員会（総務部・会員交流部）

村上理事より、ホームカミングデーは庶務、保護者会は学務で担当し、準備を進めていると報告があった。

(5) 学部支援部の事業計画進捗状況（産学連携委員会）

村上理事より、事業計画は実施中であると報告された。

(6) 学生支援部の事業計画進捗状況（就職講義委員会）

河村理事より、事業計画事項は実施済みまたは予定であると報告があった。

(7) 広報部の事業計画進捗状況

三輪理事より、事業計画事項は、実施中であるが、スパムメール対策、ホームページ内の情報更新を事務局で出来るようにする、大学院委員を交え議論を進化させる、など提案があり承認された。

(8) 千曲会館運営事業部の事業計画

石坂専務理事より、千曲会館利用者がコロナ過前の状態に戻りつつあること、3階の賃貸先はまだ見つからないことなどが報告された。

(9) 会計部の事業計画進捗状況（資金委員会）

- ・大山副理事長より学部 115 周年同窓会 110 周年記念事業の準備委員会を発足し 11 月 4 日(土) 13:30 ~ 第 1 回準備委員会を開催することになったと報告があり、承認された。
- ・石坂専務理事より、ふるさと納税に学部と一緒に取り組むと報告があり、承認された。またアメリカに留学希望の学生の支援、日中韓学生交流シンポジウム参加学生への支援（中国同窓会支援と合わせ）を実施すると報告があった。

千曲会中国支部同窓会の参加を振り返って

先進繊維工学コース 朱 春 紅

8 月 27 ~ 31 日に日中韓シンポジウム（The 14th International Symposium on High-Tech Fiber Engineering for Young Researcher、繊維学部金翼水先生主催）が中国蘇州で開催され、繊維学部から教員、学生合わせて計 19 名が参加しました。その間の 8 月 30 日(水)に第 4 回千曲会中国支部同窓会は中国の蘇州大学北キャンパスにて開催されました。私も同窓会に参加し、その様子をご報告いたします。

今回は 2014 年の第 3 回同窓会開催以来 9 年ぶりの開催となり、中国から蘇州大学元副学長の白倫先生をはじめ、1980 年代から 2023 年まで繊維学部で卒業 / 修了された 40 名以上（1 年以上の交換留学、研究者を含む）という大人数で世代を超えた同窓会が参加されました。また、日本から千曲会大山芳男副理事長、高寺政行副理事長、繊維学部鮑力民先生、金翼水先生、夏木俊明先生、金屋先生、施建先生、及び私の 8 名が出席しました。

午後 2 時の開会に先たちまして、蘇州大学紡織と服装工程学院の張克勤院長より歓迎のお言葉をい

ただき、繊維学部の人材育成に大変賞賛されました。その後、繊維学部長の森川英明先生からご挨拶のビデオ動画を視聴しました。森川先生は蘇州絲綢工学院と繊維学部の交流の始まりから、繊維学部の現状を説明し、母校に遊びにいらしてと同窓生を誘いました。続いて、大山副理事長より開会の祝辞をいただき、繊維学部と蘇州大学の交流の歴史に触れ



(写真 1)

[写真 1] 白先生の新作を千曲会の代表である大山副理事長へご寄贈

ながら更なる交流を期待されていきました。また、高寺副理事長より千曲会の紹介や海外支部との連携の問題点などを説明されました。そこで、千曲会の会員登録のため、同窓生に情報用紙を記入してもらいました。次いで、鮑先生、金翼水先生よりご挨拶をいただき、両先生とも同窓生の大事さや同窓会開催の重要性も言及されました。その後、白倫先生からご挨拶と題する「人体中の生命力-

エネルギーシステム」のご講演をいただき、著書「Life Power-energy System in Life - Foundation for Unlocking the Secret of Life」を千曲会に寄贈されました(写真1)。その後、参加者による集合写真撮影(写真2)、コース毎の同窓生撮影、研究室毎の撮影など思い出の写真を撮ってから、参加者による自己紹介、繊維学部との思い出等フリーディスカッションを行いました。司会は同窓生である紡織と服装工程学院の魏凱先生が担当されました。

夕方6時頃蘇州大学北キャンパス近くの香雪海飯店にてバンケットを行いました。金翼水先生が持ってきた日本酒による乾杯から、中国の白酒や赤ワイ



(写真2)

ンなどを交えながら、和やかな雰囲気と同窓生の交流が深めました。卒業してから一度も会ったことのない同窓生もいますので、上田での思い出や現在の状況など話題が豊富で話が尽きません。あっと言う間に時間が過ぎてしまいましたが、皆さんは次回の再開を楽しみにしています。ちなみに、今回参加できなかった同窓生は次回是非ご参加くださいね。

最後に、今回の同窓会は蘇州大学紡織と服装工程学院に多大なご支援をいただきました。感謝申し上げます。また、日中韓シンポジウムの参加にあたり、千曲会からご支援もいただいたので、ここで感謝の意を表します。

千曲会中国支部総会祝辞

千曲会副理事長 大山 芳男

千曲会中国支部総会の開催にあたり、心からお祝いを申し上げます。

総会前には日本・中国・韓国の若手研究者による研究発表会が開催されたそうですが、このように有意義な交流会をこれからも続け、発展させてもらいたいと願っています。

ここで、蘇州大学と信大繊維学部の交流について若干触れたいと思います。

日本では産業構造の変化とともに、製糸産業は衰退していきました。1964年製糸学科として入学した最後の学生が卒業し、製糸学科は無くなります。しかしながら、製糸学科という名前が消滅してからも学問的追求は続けられて行きます。その一翼を担ったのが各国からの留学生でした。

日本では製糸業の役割は終わろうとしていましたが、その科学と技術は上田で学んだ留学生によって中国はじめ各国に移転され、世界の絹産業に貢献しています。

中国が困難な時代を克服して国費留学が再開された1980年、第一回の留学生が本日ご出席の白倫先生です。大変にご苦労された後、確率統計学を習得し、生糸の抜き取り検査の理論で東大から学位を受け、蘇州大学の教授、副学長になられたことはご存知のとおりです。

その後も毎年留学生は続き、その中には千曲会80周年記念総会に出席し、中国各地にいる留学生と連携を図り、「飲水思源」のタペストリーを寄贈した羊亜平先生もいます。

その後、1986年に「信州大学と蘇州絲周工学院」との間で協定書が交わされ、姉妹校締結に至ります。その背景には80年に及ぶ両校間の長い交流の歴史があります。両校間の交流は深まり、篠原、嶋崎教授は蘇州絲周工学院の名誉教授、清水教授は客員教授として協力しました。

遡りますと中国からの留学生の歴史、人材交流の歴史は古く、1920年代、上田蚕糸専門学校の時代に遡ります。

両校の交流の幹の太さと根の深さに改めて感銘いたしました。

そして、更に本日の交流会や千曲会中国支部総会を機に中国全土に広がった同窓生が交流を図り、協力と連帯の輪が広がっていくことを期待しています。

このような歴史がこれからも永く続いていくことを祈念して私のご挨拶といたします。

予 告

2025年10月26日(日) 繊維学部創立115周年及び同窓会設立110周年記念事業 挙行予定

2020年繊維学部は110周年を迎え、記念行事を計画しましたが、折悪しくコロナ過に突入し延期されましたので、2025年に学部創立115周年と同窓会設立110周年を合わせた記念行事を計画すべく、学部と千曲会合同の準備委員会が発足しました。

115周年は半端なので120周年まで延ばせという意見もありますが、コロナ過が治まったものの、コロナ禍後の世上は大きく変化しました。またウクライナ情勢を始め国際的にも大きな変化があり、我々を取り囲

む社会も産業界もそして大学環境も変化しています。この機に「これからの繊維学部そして同窓会はどうあるべきか」これを考える機会となる記念行事とすべく115周年記念事業を挙行することを計画しております。

この式典は、ホームカミングデーと同時開催し、卒業生である(株)帝人の代表取締役内川社長をお招きしご講演をお願いする予定です。どうぞご期待ください。

周年記念事業準備委員会委員長

大山 芳男 (学工18)

常楽寺の学徒出陣戦没学生鎮魂之碑への参拝

昨年に引き続き8月の千曲会理事会の翌日の27日(日曜日)に戦没された先輩方のご冥福を願い、別所の常楽寺にある上田蚕糸専門学校第二次世界大戦学徒出陣戦没学生の鎮魂之碑に献花、参拝してきました。参拝したのは夏目理事長、石坂専務理事、白井理事、河村理事と野川の5名でした。今の時代は環境にやさしいSDGsが重要ということで石坂専務理事がお手製の粘土の線香立を用意されました。参拝後、石坂専務理事の案内で前山寺をさらに奥に進んだところにある塩野神社にも足を伸ばしました。塩野神社は平安時代の延喜式にも記載され



ている古くからの神社で戦国時代には武田信玄や真田昌幸が武運長久を祈った神社です。拝殿は楼閣造りであり、長野県では諏訪大社に見られる形式です。境内を流れる塩野川には屋根付きの太鼓橋が架かっ

ています。塩田地区では生島足島神社に次ぐ格式の神社だそうです。訪問は夏の暑い盛りでしたが塩野神社は独鈷山の麓に涼しげにひっそりとたたずんでいました。(応生3 野川)

遺贈品寄贈 竹内善吾氏(蚕14)所蔵の卒業アルバムと記念バッジ



左：剣道部 裏面の刻印
寒稽古記念 正其心 2587
上田蚕絲専門学校剣道部
右：庭球部 裏面の刻印
1926
上田蚕絲専門学校庭球部

昭和2年卒業の竹内善吾氏(元千曲会常務理事)所蔵の卒業記念アルバムと学生時代の剣道部バッジ、庭球部バッジ等を遺品として、孫の竹内信彦氏が令和5年11月13日に千曲会に届けて下さいました。卒業アルバムは、千曲会で保存している中で最も古い年代のものとなり、96年ぶりに母校へ戻って来たこととなります。当時の学校の様子を知る貴重なものです。



昭和2年卒業アルバム

行 事 予 定

- ◆ 繊維学部卒業式 3月24日
- 信州大学入学式 4月4日
- 第4回理事会 3月2日
- 第5回理事会 4月20日
- 千曲会第85回定期総会 5月25日(土)

- ◆ 岡山支会行事予定
令和6年度岡山支会同窓会(総会・懇親会)
日時: 令和6年2月10日(土) 10時30分~
森川繊維学部長にオンラインでの講演をお願いしています。オンライン同窓会も計画中です。
岡山支会 滝本寿照

- ◆ 令和5年度群馬支会総会
期日: 令和6年1月27日(土) 午後3時~5時
場所: ホテルラシーネ新前橋 3階 コスモス
会費: 7,000円

- ◆ 上小支会 令和6年行事予定
① 2月 役員会(副支会長+代議員)…令和6年活動方針、役員の懇親
② 3月 副支会長会議…総会準備

- ◆ 東京支会 2024年 活動予定
○ 1月中旬: 新年会
○ 2月10日(土): 信州大学東京同窓会(オール信大)参加
○ 3月下旬: 花見会
○ 7月上旬~中旬: 役員会(総会準備)
○ 9月下旬~10月上旬: 総会
○ 12月中旬: 忘年会

総合建設業
誠意と信用と技術で地域社会に貢献する

株式会社 **みやかぐみ 宮嘉組**

〒386-0155 上田市蒼久保1416-1
TEL.35-0032 FAX.35-0086
E-mail:miyaka@ued.janis.or.jp

- ③ 5月～6月(土) 上小支会総会、講演会、懇親会
- ④ 7月～8月 高原散策ハイキング(家族ぐるみレクリエーション)
- ⑤ 期日未定 旧千曲会館清掃

予定：名鉄グランドホテル

◆神奈川支会

令和6年6月29日(土)に千曲会神奈川支会交流同窓会(総会)を開催予定。

◆愛知支会の行事予定

新年拡大幹事会

日程：2024年2月予定

場所：未定

納涼拡大幹事会

日程：2024年6月予定

場所：未定

愛知支会総会

日程：2024年9月28日(土)予定

◆埼玉支会

埼玉支会では1月下旬か2月上旬に新年会を5月中下旬にゴルフコンペを計画しています。詳細が決まりましたら連絡申し上げますので、多数ご参加いただきますようお願い申し上げます。

なお、昨年10月11日に3年ぶりのゴルフコンペを開催し、9名と少数の参加でしたが、楽しい一日となりました。これからも開催いたしますので、よろしくようお願い申し上げます。

◆石川支会からのお知らせ

石川支会総会は9月頃に開催予定です。詳細は後日連絡致します。

前は新型コロナ禍での開催だったため参加者が少なかったため、今回は数多くの会員の皆様と懇談できることを期待しております。

事務局より

会費領収

令和5年6月1日から令和5年12月18日迄に次の方々から会費を納入頂きました。◎印は完納者です。ご協力ありがとうございました。これをもって領収書に代えさせていただきますのでご了承ください。

- 1回分 ◎吉野 悟(学農32)
- ◎長沢 雅史(化工16)
- ◎中元 節夫(化工16)
- 北澤 昭義(学紡9)
- 伊藤 武平(学工18)
- 狩野 慎治(学化30)
- 山本 勉(機8)
- 片沼 修(学工25)
- 武田 昌昭(繊維)
- 松原 千晶(素化4)
- 2回分 塩崎 良次(化工7)
- 原田 幸久(学農24)
- 広田 和子(学農25)
- 3回分 ◎野上 薫(機13)
- 伊藤 隆雄(機械コ2)

- 阿部 晃(学化12)
- 4回分 ◎玉井 重忠(機16)
- 上野 武男(学工21)
- 岡崎 明(学化30)
- 5回分 武居 直行(学化22)
- 杉浦 清治(学工20)
- 6回分 谷山 栄史(精素9)
- 8回分 ◎田ヶ原 守(化工12)
- ◎宇野 政善(学農23)
- 9回分 丸小貫正隆(学農11)
- 10回分 ◎村岡 和幸(化工7)
- ◎古川 和樹(学化32)
- ◎斎藤 悦司(学化21)
- ◎金子 俊雄(学工16)
- ◎植田 吉則(学化25)

- 伊藤 武雄(機高4)
- 11回分 ◎中西 幸男(化工10)
- 12回分 松井 正文(学農20)
- 丸 弘樹(織工課1)
- 15回分 安藤実和子(学工30)
- 16回分 ◎佐藤 紘(機4)
- 17回分 ◎横沢 聡(機16)
- 18回分 ◎金田 吉高(機14)
- ◎中元 真弓(化工16)
- 20回分 ◎西峯 弘哲(機能機10)
- ◎佐藤 巖(機12)
- ◎梅本 彰彦(機高1)
- ◎阪西 淳一(学工23)
- ◎中尾 聡(学工25)
- ◎和田 規良(学農25)

◎福井 賢一(機高2)	青山 高明(学工27)	33回分	◎堀 幸代(学農21)
◎豊嶋 浩三(学化26)	藤井 浩文(機21)		◎山下 哲男(学工24)
◎伊東 弘次(機高6)	富澤 鍊(織工課3)	38回分	◎宮崎 正子(化工7)
◎臼井 潔(機20)	張 芸(院前29)	40回分	◎北林 滋(学工24)
奥原倫太郎(織工コ3)	富澤 鍊(織工課3)		◎岡澤 光雄(機13)
丸山 敏明(化工5)	24回分 ◎安田 真吾(学化30)		◎寺島 潔(学工27)
秦 由美子(学化30)	◎生島 利彦(機7)		◎寺島 敦子(学農28)
中村 百花(感性コ3)	30回分 ◎朴 相永(学化26)		◎石川 賢司(機21)
袋 省治(学工24)	山下 和義(機高13)		◎山本 郁夫(化工10)
向井 優(機械課1)	32回分 ◎高井 裕孝(化工7)		◎中沢 実登(学化29)
滝澤 宏樹(織工課7)	◎長峰 秋雄(学化22)		◎春日 孝史(機高4)

保護者(学生)会費納入者

千曲会の保護者会員にご入会頂き心から感謝申し上げます。

この紙面にお名前を掲載して今後は入会者として対応させていただきますのでご了承ください。千曲会館は千曲会員の施設です。お気軽にご利用ください。

令和5年6月1日～12月1日の申込み及び納入です。

【応用生物科学科】

伊藤 聖人 友井 航大

【化学・材料科学科】

矢島 滉己 山本 祐督 西 優人 村田 隼輝 浅野 正暁 小林 未空

【先進繊維・感性工学科】

山崎 瑛太 藤井 菜摘 黒滝 英基 宇都宮峻太 泉 敢太 梅田 貴世
谷田 廉飛 五十嵐 杏 伊藤優喜子 松岡 響 中島 楓 中島 梓

【機械・ロボット学科】

長江 滉芽 島根 康介 小木曾元俊

維持支援金領収 (令和5年6月1日から令和5年12月15日まで)

大変多くの会員から維持支援金をご納入いただき、ありがとうございました。失礼ながらこの掲載をもって領収に替えさせていただきますのでご了承の程お願い申し上げます。

ここに感謝の意を表してお名前を掲載します。敬称は略させていただきます。今後ともよろしく願いいたします

維持支援金寄付者

匿名希望(学農22)	大矢 和男(学工29)	若嶋 清人(学農20)	藤原 香織(学農34)
白井 克芳(機18)	横山 好範(学農17)	中嶋 和彦(学化20)	岡澤 光雄(機13)
嶋田十三男(機6)	池田 進(機17)	宇井 隆(学工34)	中上 保(化工23)
石坂 征洋(学農18)			

物 故 会 員

令和 5 年 6 月 1 日から令和 5 年 12 月 8 日までに次の方々が無くなられたとのご連絡がありました。これまでの千曲会へのご協力に感謝申し上げ、謹んで哀悼の意を表します。

氏 名	(学科卒回)	忌日	住所	氏 名	(学科卒回)	忌日	住所
土屋 修	(化 9)	R5.5.16	上田市	市村 武門	(学農 10)	R3.6.13	上田市
中野 国男	(糸 36)	R4.4.14	須坂市	窪田 衛二	(学蚕 4)	R5.5.12	松本市
岡田 喜六	(糸 31)	R3.2.11	西尾市	原 互	(学糸 4)	R5	諏訪郡
関 栄義	(学蚕 7)	R5.4.7	堺市	西村利三郎	(学蚕 3)	R4.4.23	松本市
塩川 莞爾	(学化 10)	R5.2	西東京市	浜脇 溢雄	(学化 8)	R5.6.2	取手市
宮沢 廣之	(学紡 6)	R5.4.16	上田市	松岡 重之	(蚕 35)	R5	渋川市
片桐 直希	(化工 2)	R5	上田市	今関 貞夫	(学化 17)	R5.8.1	上伊那郡
島津 幸久	(糸 36)	R5.6.7	上田市	打保 勝郎	(学紡 12)	R5.7.31	諏訪市
清水 周	(化 9)	R5.1.30	上田市	小松 好人	(学化 6)	R5.4.13	長野市
水野 保	(学紡 2)	R2.7.2	上田市	長岡 俊男	(学蚕 7)	R5.1.15	東御市
赤沼 喜雄	(蚕 35)	R5.6.17	岡谷市	新実 和男	(蚕 35)	R3.9.6	西尾市
窪田 暢	(蚕別 4)	R4.12.18	上田市	須藤 昭雄	(学化 15)	R5.10	弥富市
宮原 安平	(学蚕 1)	R5.3.11	埴科郡	木村宏一郎	(化工 7)	R5.9.8	船橋市
清水 功次	(機 21)	R1.7.23	北安曇郡	青島 二郎	(学糸 3)	R5.4.12	小県郡
清水 邦穂	(学化 10)	R3.12.8	西条市	浅山 俊幸	(学紡 8)	R5.11.7	船橋市
後藤 英夫	(学農 14)	R5.3.29	横浜市	石橋 博	(学化 3)	R5.6.26	堺市
大島 充雄	(化工 1)	R4.3.15	瀬戸市	深井 眞澄	(農 2)	R5.12.6	東御市

事務局のつぶやき (20)

中沢賢先生(名誉教授・千曲会顧問)が、時折、千曲会事務所を訪れる。自分は教官の時代に千曲会に関わっていたことがある。今は卒業生としてかかわっているが、教官時代からみた千曲会と大きく違う。実に多岐に亘り新しい感覚で取り組んでいることが分かる、と仰っていただいたことがある。

確かに思い出すと千曲会に来た当時は、会社員時代の癖が残り、問題を見つけては対策すること或いは合理化をやり続けていた。企業経営の経験から見ると見逃されている問題も多かったし、対策も放置されていた。執行部の責任組織が曖昧だった。最初は、無知だった千曲会に対する認識も深まると問題解決が楽しくなった。それでこれまで続いて来た。

中沢先生はこの夏にも突然事務所に来られ、ソファに座ると近くにあったメモ用紙を手にして何か

考えながら書き始めた。書き終わると手渡された。

「石宮の坂を登りて

仰ぎ見る

浅間の峰に

夏雲のたち

詠み人知らず」

とあった。事務局が、石坂と女子事務員の宮坂で運営されている。その二人(石宮)が頑張っているのので千曲会も動いている。浅間山を仰ぎ見ると夏目理事長に代表される千曲会のような大きな雲(夏雲)が立っているという意味らしい。千曲会賛歌だよと仰った。そういうふうに見てもらっていたのはありがたいことだが、工学系の教授だったのにそれを短歌にするなんて教養の深さだ。詠み人はわかっているが、詠み人知らずとするのも奥ゆかしいジョークだ。笑ってしまう。その中沢先生が、今回、「事務

局のつぶやき」の向こうを張って、「老顧問のつぶやき」を寄稿して下さった。こういう素晴らしい先生方との出会いも千曲会に来て良かったことだ。

ホームカミングデーでは、卒業して6年で公認会計士になった松本さんに話をしてもらった。一緒に来た友達の藤原さんにホームカミングデーの感想を寄稿してもらった。色々な道に挑戦し自分の道を切り開いた同窓の素晴らしい先輩、同輩、後輩にも出会える。どうにもくだらない輩もいる。こういう多様な出会いも私自身の栄養になった。

今年の夏は、猛暑日が続き、自宅の庭の花も木もやっと生き延びている様子だった。野菜作りも秋野菜は芽も出ず惨敗だった。そんな暑い日、事務員の宮坂さんが急用で早引けした。高齢のお父さんが病院に運ばれ入院したとのこと。田んぼに出たお父さんが熱中症で倒れ土手を転げ落ちた。近所の人が病院まで運んでくれた。病院に駆け付けた宮坂さんは話を聞き、草の生えた柔らかな土手だったので怪我

もなく良かったと思った。「転んだのが土手で良かったね」と言うと、医者に、「土手だって駄目ですよ、骨でも折ったらどうするんですか」と厳しくたしなめられたらしい。そのギャップがおかしくて大笑いしてしまった。熱中症は治ったように見えてもその後、後遺症で目まいが出るらしい。何度か遅刻をしてお父さんを介護していたが落ち着いて安心した。千曲会には実に雑多な作業がある。宮坂さんはこれを色々な配慮をしながら処理してくれている。私からの指示に対してもいつも「はい」と答えてすぐに取り掛かる。口答えをしたことがない。よく笑う。

宿泊施設の清掃担当のパートのSさんも元気でよく笑い仕事を誠実にする人だった。4人の子育てをしながら癌の闘病も乗り越え13年も務めてくれたがこの12月末で辞めることになった。新年は新しい出会いがありますように。

(事務局 石坂征洋 学農18)

龍の子太郎と信州

あけましておめでとうございます。2024年（令和6年）になりました。千曲会報の1月号では毎年、干支に関係した写真や記事を掲載していますが、今年は辰年で干支は龍です。松谷みよ子の児童文学で龍が出てくる物語の「龍の子太郎」は信州を舞台にしている物語です。

「龍の子太郎」は長野県の上田に伝わる民話「小泉小太郎」と安曇野に伝わる「泉小太郎」を組み合わせ再話した作品で、人間の父と龍の母を持つ少年・太郎が母を探しに旅に出て天狗から百人力を授かり母と再会して湖の水を切り開いて平地を作るといふ物語です。

信州は日本の中央に位置し山々に囲まれた自然豊

かな地域です。信州には龍の子太郎にまつわる伝説や銅像が多く残っており、例えば上田市には小泉小太郎が生まれたとされる鞍が淵や小泉山には小泉小太郎像があります。安曇野市には泉小太郎は犀竜に乗って突破したとされる山清路や穂高神社に泉小太郎像があります。大町市には大町ダムにある泉小太郎像や民話の里おおまち小太郎という博物館があります。長野市には久米路峡に泉小太郎像があります。



(応生3 野川)

❖ 広告掲載のお礼とお願い ❖

本会報発行に当り、下記の企業様から賛助広告をいただきました。ご協力ありがとうございました。厚くお礼申しあげます。今後とも引き続き広告の掲載をお願いいたします。

また企業広告、製品広告、リクルート広告などの広告掲載の募集もいたしております。詳細につきましては、千曲会事務局までお問い合わせください。

広告掲載企業

一般社団法人日本衣料管理協会……	表紙裏
上田第一ホテル……	11頁
上田東急REIホテル……	18頁
田口印刷株式会社……	25頁
株式会社丸陽……	43頁
株式会社宮嘉組……	51頁

投稿される方へ

会員からの声、クラス会、支会総会、同好会などの記事はもちろん、日々折々の出来事を綴ったエッセイ、詩歌、写真などの投稿もお待ちしております。

1. 原稿の書き方

- ◆パソコンの場合…CD、メモリー、メールでお送り下さい。写真は、文章データと別々にお送り下さい。
- ◆手書きの場合…横書きの原稿用紙にお書き下さい。

も可能です。

※プリントされた写真は原則としてお返ししませんので、返却が必要な場合は、その旨記載して下さい。

※編集委員会で加筆・修正させて頂く場合がありますが、ご了承ください。

2. 文字数

- ◆クラス会、支会総会、同好会などの記事…最大 700 字+写真 1 枚 (350 字相当)
- ◆読者のページ…最大 1800 字+写真 1 枚(350 字相当) 内容によっては、これを超えること

3. 送付先

〒 386-0018 上田市常田 3-8-37
(一社)千曲会 編集委員会
TEL.0268-22-4465 FAX.0268-22-4460
E-mail: schikuma@siren.ocn.ne.jp

次号(327号)の原稿締切日は 2024年5月27日です。

編集後記

皆さんにこの千曲会報が届く頃は、2024年1月末頃で既に新しい年が始まっていることと思います。昨年とはどんな年だった、今年とはどんな年になるだろう、期待と不安が入り混じった時期ではないでしょうか。

昨年5月に新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが5類に移行してから、多くの場面で日常生活が戻ってきました。今回の千曲会報でも紹介していますが、オープンキャンパス、東雲祭、ホームカミングデーなど多くの学部イベントが通常通りに対面で開催され、嬉しい限りです。ですが、コロナ禍の影響は、人間関係や生活など様々なところにもたらされたと感じます。また、新型コロナウイルス感染症だけでなく、インフルエンザも流行しており、まだまだ気が抜けない日々が続いています。社会が繊維学部が千曲会がこの先どのように変容していくのかわかりませんが、明るい将来を期待しています。

前回から千曲会報の編集委員会に大学院生の編集委員2名が加わり、新しい風を感じつつ、今後も充実した記事を掲載したいと思います。(T)

編集委員会:服部義之、小関道彦、朱春紅、鈴木正浩、滝沢辰洋、田中稔久、中嶋和彦、野川優洋、林光彦、山辺典昭、宮本那都、谷本悠紀

千 曲 会 報
No.326

令和6年1月1日 発行

編集発行人 夏目 駿一
発行所 一般社団法人 千 曲 会
長野県上田市常田3丁目8番37号
TEL. (0268)22-4465
FAX. (0268)22-4460
E-mail: schikuma@siren.ocn.ne.jp
http://www.chikumakai.org
印刷 田口印刷株式会社
長野県上田市殿城425-1
TEL. (0268)22-0680
FAX. (0268)24-7757



東御市芸術村区明神池から望む浅間山 石坂征洋（学農 18）